## こども学科
## 【令和４年度入学生】（こども１年生）

### 1）教養科目


文章表現法　大橋　修一 …… 3
情報機器演習　江頭　幸代 …… 4
生涯スポーツⅠ　小山内弘和 …… 5
知の技術　木谷, 齊藤, 佐々木, 佐藤, 宮澤, 岩崎 …… 6


### 2）専門科目


国語（書写を含む）　大橋　修一 …… 7
社会　長沼　秀明 …… 8
算数　杉野　裕子 …… 9
理科　長友　大幸 …… 10
生活　齋藤　澄子 …… 11
音楽Ⅰ　齊藤, 一村, 佐藤(千), 佐藤(良), 鈴木, 須田, 舘岡, 山口(亜) …… 12
音楽Ⅱ　宮澤, 一村, 佐藤(千), 佐藤(良), 鈴木, 須田, 舘岡, 山口(亜) …… 13
教職･保育概論(教育制度等を含む)　小林　佳美 …… 14
教育原理　野口　周一 …… 15
保育･教育課程論　野口　周一 …… 16
発達心理学　細渕　富夫 …… 17
保育内容（健康）　安倍　大輔 …… 18
保育内容（言葉）　大橋　修一・佐々木美和 …… 19
保育内容（表現･音楽）　齊藤　淳子 …… 20
保育内容（表現･造形）Ⅰ　木谷　安憲 …… 21
保育内容（表現･造形）Ⅱ　木谷　安憲 …… 22
子どもと健康　小山内弘和 …… 23
子ともと人間関係　岩崎　桂子 …… 24
子どもと言葉　大橋　修一・佐々木美和 …… 25
子ともと表現　木谷･齊藤･宮澤 …… 26
初等教科教育法（国語）　大橋　修一 …… 27
初等教科教育法（社会）　長沼　秀明 …… 28
初等教科教育法（理科）　長友　大幸 …… 29
道徳の指導法　長沼　秀明 …… 30
児童文化　佐々木美和 …… 31
社会的養護Ⅰ　小堀　哲郎 …… 32
社会的養護Ⅱ　小堀　哲郎 …… 33
保育原理　島田　和幸 …… 34
子どもの保健　熊坂　隆行 …… 35
子どもの健康と安全　熊坂　隆行 …… 36
子どもの食と栄養Ⅰ　三沢　徳枝 …… 37
乳児保育Ⅰ　関根　久美 …… 38
乳児保育Ⅱ　関根　久美 …… 39
特別支援論Ⅰ(対象理解)　井上　昌士 …… 40
栽培　森田　恒夫 …… 41
演劇　伊東　弘美 …… 42
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　木谷, 関根, 佐々木, 小林 …… 43
教育実習Ⅰ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 44
教育実習指導（事前事後）（小学校）　長沼　秀明 …… 45
教育実習Ⅰ（小学校）　こども学科専任教員 …… 46
保育実習指導Ⅰ（事前事後）　三沢, 宮澤, 岩崎, 小林 …… 47
保育実習指導Ⅱ（事前事後）　野口, 井上, 小山内, 齊藤, 佐藤 …… 48
保育実習Ⅰ（保育所）　こども学科専任教員 …… 49

保育実習Ⅱ（施設）　こども学科専任教員 ･････････････････････････ 50

**3）ゼミ**

保育・教育学演習Ⅰ（造形・美術教育）　木谷　安憲 ･････････････････････････････････ 51
保育・教育学演習Ⅰ（健康科学･運動生理学）　小山内弘和 ･････････････････････････････ 52
保育・教育学演習Ⅰ（特別支援教育）　井上　昌士 ･････････････････････････････････ 53
保育・教育学演習Ⅰ（社 会 認 識）　長沼　秀明 ･････････････････････････････････ 54
保育・教育学演習Ⅰ（保　育　学）　関根　久美 ･････････････････････････････････ 55
保育・教育学演習Ⅰ（音楽教育実践学）　齊藤　淳子 ･････････････････････････････････ 56
保育・教育学演習Ⅰ（家族関係学）　三沢　徳枝 ･････････････････････････････････ 57
保育・教育学演習Ⅰ（児 童 文 学）　佐々木美和 ･････････････････････････････････ 58
保育・教育学演習Ⅰ（子ども家庭福祉論）　佐藤　晃子 ･････････････････････････････････ 59
保育・教育学演習Ⅰ（音楽教育学）　宮澤多英子 ･････････････････････････････････ 60
保育・教育学演習Ⅰ（臨床保育学）　岩崎　桂子 ･････････････････････････････････ 61
保育・教育学演習Ⅰ（保育の社会学）　小林　佳美 ･････････････････････････････････ 62

# 文章表現法　～幼児教育者としての基礎的な文章表現力を養う～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | － | 選択 |

| 担当教員 |
|---|
| 大橋　修一 |

## 授業概要

幼児教育者にとって、文章を書くということは不可欠であり、基礎的な文章力を備えていることが望まれる。実際に、保育の観察記録や手紙を書く、保護者への連絡を書く、具体的な指導計画を書く、会議の議事録を正確に書く、ファックス送信で文章を書くなど、正確でわかりやすい文章を書く力が求められている。しかし、正しいだけの文章ではコミュニケーションを取ることは難しく、相手にはよく伝わらないものである。そこで、よりよく伝わる表現力が必要になってくる。本講義では、幼児教育者として必要な正しく書く文章力と、よりよく伝えるための文章表現力の基礎を養っていくよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 手紙の書き方①　―　幼児の様子を伝えるお便り、連絡帳の書き方 |
| 第 3 回 | 手紙の書き方②　―　保護者に行事などを知らせるお便り |
| 第 4 回 | 履歴書の書き方 |
| 第 5 回 | わかりやすく書く①　―　予告文を考える |
| 第 6 回 | わかりやすく書く②　―　５Ｗ１Ｈを落とさずに |
| 第 7 回 | よく伝わる表現の工夫　―　DVD を見て書き出しや文の接続、文末表現について理解する。 |
| 第 8 回 | 意見文を書く①　―　文章構成を考える（テーマ、全体構想、起承転結） |
| 第 9 回 | 意見文を書く②　―　主張、根拠、対立意見、対立意見への反論を入れて意見文を書く練習 |
| 第 10 回 | 意見文を書く③　―　主張、根拠、対立意見、対立意見への反論を明確にして意見文を書く。 |
| 第 11 回 | 観察記録の取り方①　―　記録の必要性、観察記録から何が読み取れるか、観察記録を絵に表す。 |
| 第 12 回 | 観察記録の取り方②　―　ＶＴＲを見て、観察記録を書く。 |
| 第 13 回 | 新聞記事から読み取る① |
| 第 14 回 | 新聞記事から読み取る② |
| 第 15 回 | まとめ　―　文章表現に対する自己の課題を把握する。 |

## 到達目標

・文章作成の基本について理解することができる。
・主張、根拠、対立意見、対立意見への反論を入れて意見文を書くことができる。
・保育の観察記録や手紙、連絡の文章を書くことができる。

## 履修上の注意

欠席をする場合は、その理由を指導者に連絡をする。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

## 予習・復習

・予習：日頃から新聞記事や社会情勢に関するニュースに目を通しておく。
・復習：必要に応じて宿題などを出し、習熟化を図るようにする。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 学期末試験 70% | 授業内レポートおよび宿題 20% | 受講態度 10% |

## 使用教科書名

必要に応じてプリントを配布する。

# 情報機器演習　～コンピューター・リテラシー～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | 必修 | 必修 | 選択 |

| 担当教員 |
|---|
| 江頭　幸代 |

## 授業概要

パソコンの基礎的な学習、windows の基本的な操作から始め、ワード（Word）を利用した文字入力、表計算ソフト（Excel）の活用、インターネットを利用した情報の検索と収集、パワーポイントの使い方を講義する。講義では、上記のソフトの使い方を身につけるとともに、講義全体を通じて、保育活動に有効なパソコンの利用方法を考えていき、今後のさらなるスキルアップにつながるように講義する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス（パソコンの基礎知識）、windows の基本的な操作 |
| 第 2 回 | Word①（文書作成、字体の変更） |
| 第 3 回 | Word②（図形の挿入、図形描画、文書デザイン） |
| 第 4 回 | Word③（クラスだより作成） |
| 第 5 回 | Word④（チラシ作成―段組み、写真・絵の挿入） |
| 第 6 回 | Word⑤（保護者への文書作成） |
| 第 7 回 | Excel①（表作成―出勤簿、月謝袋） |
| 第 8 回 | Excel②（グラフ作成） |
| 第 9 回 | Excel③（関数の利用１） |
| 第 10 回 | Excel④（関数の利用２） |
| 第 11 回 | Power Point①（スライド作成の基礎） |
| 第 12 回 | Power Point②（アニメーション効果） |
| 第 13 回 | Power Point③（運動会のプログラム作成） |
| 第 14 回 | Power Point④（ひなまつり、卒園式の案内作成） |
| 第 15 回 | 園児のためのパソコン利用法の検討とまとめ |

## 到達目標

本講義の目標は、パソコンを操作し、目的とする作業を行い、効率的に情報が処理できるように、パソコンソフト（ワード、エクセル、パワーポイント）の基本的な操作方法を身に付けることである。また必要な情報を得ることができる能力や相手に伝わりやすい文書のレイアウトの構成を考えていく。

## 履修上の注意

パソコンにログインできるパスワードの紙（入学時に配布）を準備しておくこと。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

## 予習・復習

・予習：　教科書を読んでおくこと。
・復習：　授業中の課題を完成させること。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 授業態度（10%） | 定期試験（筆記）（70%） | 課題の提出（20%） |

## 使用教科書名

・教科書名：「世界一やさしいエクセルワードパワーポイント 2019／Office365 対応」
・著 者 名：トップスタジオ
・出版社名：インプレスムック
・出 版 年：2020 年

## 生涯スポーツⅠ　～スポーツを楽しみながら自己の健康を考える～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 1 | 選択 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 小山内弘和 |

### 授業概要

「身体を動かす」ことに重点を置き、複数のスポーツにより展開し、それぞれのスポーツの特性に触れる。さらに、経験者が初心者を教えるなどにより、スポーツを全体として楽しむための方法について考え、そして運動・スポーツを通して「教授」することの重要性を再確認できるよう指導する。また、身体のデータを収集し、その変化と体力との関連についても考える。

### 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 自己の身体について（身体計測１） |
| 第 3 回 | バレーボール①基礎 |
| 第 4 回 | バレーボール②応用 |
| 第 5 回 | バレーボール③ゲーム |
| 第 6 回 | バスケットボール①基礎 |
| 第 7 回 | バスケットボール②応用 |
| 第 8 回 | バスケットボール③ゲーム |
| 第 9 回 | 卓球・バトミントン①基礎 |
| 第 10 回 | 卓球・バトミントン②応用 |
| 第 11 回 | 卓球・バトミントン③ゲーム |
| 第 12 回 | ドッヂビー①基礎 |
| 第 13 回 | ドッヂビー②ゲーム |
| 第 14 回 | 自己の身体の変化について（身体計測２） |
| 第 15 回 | まとめ |

### 到達目標

自らの運動能力（体力）の現状を実感するとともに、仲間づくりや協調性を含めた、運動・スポーツの楽しさ、一生懸命に動くことによる爽快感を感じること。

身体計測を通して、自己の身体の変化について知り、自己の体力について考える事。

### 履修上の注意

・ コロナウイルス感染拡大防止に努めて実施する、
・ 授業は、必ずジャージで受講することとし、屋内履きを必ず準備すること。ジャージ以外の服装、屋内履きがない場合は、出席を認めない。
・ 安全上の問題から、爪、頭髪やアクセサリーについても十分に配慮すること。
・ 暑さが予想されることから、十分に体調管理の上で出席すること。
・ 遅刻は３回で１回の欠席とする。
※履修者人数、コロナ感染状況や環境条件に合わせて変更する場合がある。
※土足での授業参加を発見した場合、保育・教育者としての資質に関わることから、以降の履修の可否について検討する。

### 予習・復習

日常の運動習慣は、実技での活動の基礎となる。より充実したスポーツ活動を進めるために以下の事を心がける事。
・予習：様々なスポーツでも、わずかな運動でも心掛ける。
・復習：授業で感じたことから、日常の生活を見直すように工夫する。

### 評価方法

| | |
|---|---|
| 授業への貢献度及び授業態度（60%） | レポート（40%） |

### 使用教科書名

なし（適宜、プリント等を配布）

# 知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 必修 | － | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼･関根･佐々木･小林 |

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を指導する。
・大学生としての学びの技術と大学で履修する科目内容への理解（川短での学びを深める）
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力を磨く）
・実習に必要な社会常識とマナー（実習に向けて準備する）

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス―大学での学び方を身に着けよう |
| 第 2 回 | 川短での学びの概要と受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び①） |
| 第 3 回 | メディアセンターの機能を知り活用しよう（学生としての学び②） |
| 第 4 回 | インターネット（SNS を含む）の有効な活用を考えよう（学生としての学び③） |
| 第 5 回 | ノートの取り方とレポートの書き方を身につけよう（学生としての学び④） |
| 第 6 回 | 教員・保育士を目指すための心構えを確認しよう（実習にむけての学び❶） |
| 第 7 回 | 実習に参加するためのマナーを身につけよう（実習にむけての学び❷） |
| 第 8 回 | 手紙の書き方を身につけよう（実習にむけての学び❸） |
| 第 9 回 | 人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び❹） |
| 第 10 回 | 教育・保育学演習の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び⑤） |
| 第 11 回 | 教育・保育学演習の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び⑥） |
| 第 12 回 | 個人調書を書こう（実習にむけての学び❺） |
| 第 13 回 | 模擬授業・模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❻） |
| 第 14 回 | 模擬授業・模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❼） |
| 第 15 回 | まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び⑦） |

## 到達目標

2 年間の大学生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、社会人としての基本的なスキルおよび教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナーを身につける。

## 履修上の注意

本授業は大学での学びの基礎となる事項に加えて、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、全学生がすべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保存しておくこと。

1 年後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることが前提で進められるので、実習参加予定者は特に注意してもらいたい。

また、5 回・10 回・15 回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

## 予習・復習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 漢字テストおよび課題レポート　50% | 授業時の提出物　30% | 発表　20% |

## 使用教科書名

・教科書名：『【改訂版】これだけは知っておきたい保育の基本用語』
・著 者 名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出 版 年：2017 年
＊『令和 4 年度　実習のてびき』（他に、必要に応じて資料を配布する）

# 国語（書写を含む）　～言葉で考え、言葉で表現し、国語の力をつけよう～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 大橋　修一 |

**授業概要**

各教科の言語活動の基礎となる国語科の意義や特質について捉えさせ、表現力・思考力・理解力などを育むことができる言語活動の充実をめざすことを目的とする。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における身につけたい力と言語活動の目的を明確にした教育現場での実践的資料をもとに、日常生活に必要な基礎的な国語の力を身につけることができるようにする。実際に書写実技（硬筆・毛筆）を行い、演習を中心にして国語の力を高めるよう指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 国語科の意義や特質、国語科の目標（学習指導要領を参考にする。） |
| 第 2 回 | 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の評価 |
| 第 3 回 | 「話すこと・聞くこと」の言語活動　―「１分間スピーチ」 |
| 第 4 回 | 伝え合う力を育てる言語活動の工夫　―　詩の音読 |
| 第 5 回 | 「書くこと」の学習について　―「書くこと」の単元づくり |
| 第 6 回 | 「書くこと」の言語活動　―　手紙文の書き方（葉書を書く。） |
| 第 7 回 | 「読むこと」の学習について　―「読むこと」の単元づくり |
| 第 8 回 | 「読むこと」の言語活動　―　新聞記事の比べ読み |
| 第 9 回 | 効果的な板書の仕方 |
| 第 10 回 | 四字熟語を知り、知識を深める① |
| 第 11 回 | 四字熟語を知り、知識を深める② |
| 第 12 回 | 書写実技（硬筆）―　送筆「まがり」「おりかえし」「むすび」① |
| 第 13 回 | 書写実技（硬筆）―　送筆「まがり」「おりかえし」「むすび」② |
| 第 14 回 | 伝統的な言語文化　―　「短歌・俳句」「童謡・唱歌」 |
| 第 15 回 | まとめ―振り返りをし、今後の課題を確認する |

**到達目標**

・詩の音読、書くなどの演習を通して、国語の力を磨くことができる。
・スピーチをする、手紙を書く、新聞記事の読み比べをする等の言語活動を通して、日常生活に必要な基礎的な国語の力を身につけることができる。

**履修上の注意**

・欠席をする場合は、その理由を指導者に連絡をする。
・国語の基礎力をつける授業なので、保育士志望者にも履修が望ましい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

**予習・復習**

・予習：日頃から新聞記事や社会情勢に関するニュースに目を通しておく。
・復習：新聞のまとめなどの宿題を出し、習熟化を図るようにする。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 学期末試験 70% | 授業内レポートおよび宿題 20% | 受講態度 10% |

**使用教科書名**

毎回。プリントを配布する。

# 社会　～社会科とは、いかなる教科か～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼　秀明 |

## 授業概要

小学校の教育課程における社会科の役割や性格について講義する。具体的には、学習指導要領に掲げられている「教科の目標」および「各学年の目標及び内容」について、社会科という教科の歴史をふまえて指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 社会科の目標（1）　小学校社会科の目標 |
| 第 2 回 | 社会科の目標（2）　「社会生活についての理解」 |
| 第 3 回 | 社会科の目標（3）　「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情」 |
| 第 4 回 | 社会科の目標（4）　「公民的資質の基礎」 |
| 第 5 回 | 学年の目標―構造と系統― |
| 第 6 回 | 各学年の目標および内容（1）　第 3 学年および第 4 学年（その 1） |
| 第 7 回 | 各学年の目標および内容（2）　第 3 学年および第 4 学年（その 2） |
| 第 8 回 | 各学年の目標および内容（3）　第 3 学年および第 4 学年（その 3） |
| 第 9 回 | 各学年の目標および内容（4）　第 5 学年（その 1） |
| 第 10 回 | 各学年の目標および内容（5）　第 5 学年（その 2） |
| 第 11 回 | 各学年の目標および内容（6）　第 5 学年（その 3） |
| 第 12 回 | 各学年の目標および内容（7）　第 6 学年（その 1） |
| 第 13 回 | 各学年の目標および内容（8）　第 6 学年（その 2） |
| 第 14 回 | 各学年の目標および内容（9）　第 6 学年（その 3） |
| 第 15 回 | まとめ |

## 到達目標

社会科とは、いかなる教科であるのかについて、十分に理解できるようになること。あわせて、初等教育における社会科教育の内容について指導できる能力の基盤を養うこと。

## 履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

なるべく「初等教科教育法(社会)」とあわせて履修してくれることを望みます。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

## 予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

## 評価方法

| | |
|---|---|
| 授業の成果 55% | 筆記試験の得点 45% |

## 使用教科書名

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年：平成 30 年

# 算数　～算数科の内容についての基礎的知識～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 杉野　裕子 |

## 授業概要

算数は，日常の事象を数理的に捉えて問題解決することで，よりよく生きていくための，知識・技能および態度を身に付けるための教科である。また，問題解決の過程では，思考力や表現力も養う。

本授業では，数学の対象である，数と量と図形について，児童の認知発達段階に基づいた理解ができるように，『学習指導要領解説』と『小学校の教科書』と「算数教育の理論」を有機的に結び付けて講義する。また，関連する他の領域や算数教育に関わる背景についても講義する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション，実質的陶冶と形式的陶冶，算数教育の歴史（戦前および戦後） |
| 第 2 回 | 『学習指導要領解説』の読み方・使い方，平成 29 年算数科の目標 |
| 第 3 回 | 命数法と記数法，数えること，幼児期の遊びの中の数に関する活動 |
| 第 4 回 | 十進位取り記数法，非十進位取り記数法（五進法） |
| 第 5 回 | 加法と減法が用いられる場合とその指導（順思考と逆思考） |
| 第 6 回 | 繰り上がりや繰り下がりのある加法と減法，加法と減法の筆算指導 |
| 第 7 回 | 乗法とその意味，九九とその指導，除法の意味 |
| 第 8 回 | 小数の概念と計算の指導 |
| 第 9 回 | 分数の概念と計算の指導 |
| 第 10 回 | 量の概念とその指導，長さを例にした測定の４段階 |
| 第 11 回 | 重さ・時間・角度概念とその指導 |
| 第 12 回 | 図形の構成要素や定義や性質の指導，イメージの形成（長方形を中心として） |
| 第 13 回 | 図形の求積公式の創造と，思考力・表現力との関係①　長方形，三角形 |
| 第 14 回 | 図形の求積公式の創造と，思考力・表現力との関係②　平行四辺形とひし形，円 |
| 第 15 回 | 算数における ICT 活用，プログラミングによる図形概念形成 |

## 到達目標

小学校算数科で扱う内容について，教師としての基礎知識を獲得することを目的とする。
・学習指導要領解説と算数の教科書と照らし合わせながら，内容についての説明ができる。
・算数科におけるカリキュラムの系統性に留意し，教材分析や授業設計に役立てることができる。

## 履修上の注意

講義形式で行うが，扱う内容についての問題を解いたり，意見を求めたりする。また，教具を作成し，実際に使用する活動の体験もするので，いずれも積極的に取り組むこと。筆記試験は，状況に応じて複数回に分けて実施します（授業で告知）。

30 分を越える遅刻は入室を認めず欠席扱いとする。30 分以下の遅刻 3 回で欠席 1 回分とする。

## 予習・復習

・予習：『学習指導要領解説』の該当ページを知らせるので，毎回熟読しておくこと。
・復習：授業で配布された資料（小学校の教科書の内容）と，授業で取ったノート（講義内容）を関係づけながら理解を確実にしておくこと。また，宿題として出された復習課題は必ず解き，当たった学生は授業の開始までに，解答を板書しておくこと。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 筆記試験 70% | 宿題 20% | 受講態度 10% |

## 使用教科書名

・教科書名：学習指導要領解説　算数編
・著者名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出版年：2018
（あとは資料を配布。算数の教科書各学年についても，こちらで資料として配布します。）

# 理科　～身につけておきたい理科の知識と実験技能～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長友　大幸 |

## 授業概要

小学校学習指導要領を概説するとともに，教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には，可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして，小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能，安全面での配慮事項など，教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション，小学理科の概要 |
| 第 2 回 | 学校および小学校学習指導要領における理科教育の目標 |
| 第 3 回 | 小学校理科の学習内容（A区分・B区分） |
| 第 4 回 | 実験器具の取り扱い方と安全教育 |
| 第 5 回 | A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物体の運動」 |
| 第 6 回 | A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「電気，磁石」 |
| 第 7 回 | A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「光，物質の性質」 |
| 第 8 回 | A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物質の変化」 |
| 第 9 回 | B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「植物の成長，生物と環境」 |
| 第 10 回 | B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「動物の成長，人の体のつくり」 |
| 第 11 回 | B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「大地の構成とその変化」 |
| 第 12 回 | B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「天気とその変化」 |
| 第 13 回 | B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「太陽，月，星の動き」 |
| 第 14 回 | 理科における環境教育と野外観察の方法 |
| 第 15 回 | まとめ |

第 4～14 回にかけて，実習や実験および野外観察を取り扱う。

## 到達目標

1．小学校理科の各分野にわたる基礎的な教授内容を理解する。
2．学習指導要領理科の目標，小学校理科の内容の構成と各学年の目標をふまえながら，児童の自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。
3．小学校理科で取り扱われる実験の基本的な操作，危険の回避，実験準備の注意点，考え方などを理解する。
4．児童が体験することが予想される身の回りの事物現象，自然とのふれ合いについて考える。

## 履修上の注意

本授業では，実験・観察を取り入れることが多い。説明を聞かずに取り組むと事故につながることもあるので，原則として遅刻は認めないので留意すること。

## 予習・復習

予習として、事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。復習としては、知識や実験の技能の定着を図る小テストを第 2 回目以降毎回行うので，それに対応できるように前時の学習事項の確認に力を入れ，本時の授業に臨むことが重要である。

## 評価方法

| | |
|---|---|
| 授業への参加状況を授業中の課題や実験への取り組みなど（20%） | |
| 教師として必要な知識と技能の取得状況を定期試験（70%） | 小テスト（10%） |
| 欠席が 1 / 3 を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。 | |

## 使用教科書名

・教科書名：文部科学省検定済み教科書「たのしい理科」（小学校 3～6 年）の 4 冊
・出版社名：大日本図書　・令和 2 年度初版
参考資料：文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　理科編』（最新版）

# 生活　～生活科の授業力を高めるために～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 齋藤　澄子 |

## 授業概要

幼保小連携を視野に入れ、児童の発達段階に合わせた「生活科の学び」を実践できる指導力を身に付けるために、学習指導要領「生活」に沿って、９つの学習内容の理解を深める。学生の主体的な学習を推進し、生活科教育に関する専門知識を活用した授業力を高めるために、演習を中心に教材研究を行い、学習指導案作成や模擬授業を取り入れ、実践的に学べるようにする。また、ＩＣＴを活用した授業構成についても理解し、活用できるようにする。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス（授業の目的と進め方について知る）　生活科の目標 |
| 第 2 回 | 生活科の誕生と歴史 |
| 第 3 回 | 生活科の学習内容と階層性 |
| 第 4 回 | 学習内容（１）の内容・授業展開と解説　教材研究① |
| 第 5 回 | 学習内容（２）の内容・授業展開と解説　教材研究② |
| 第 6 回 | 学習内容（３）の内容・授業展開と解説　教材研究③ |
| 第 7 回 | 学習内容（４）の内容・授業展開と解説　教材研究④ |
| 第 8 回 | 学習内容（５）の内容・授業展開と解説　教材研究⑤ |
| 第 9 回 | 学習内容（６）の内容・授業展開と解説　教材研究⑥ |
| 第 10 回 | 学習内容（７）の内容・授業展開と解説　教材研究⑦ |
| 第 11 回 | 学習内容（８）の内容・授業展開と解説　教材研究⑧ |
| 第 12 回 | 学習内容（９）の内容・授業展開と解説　教材研究⑨ |
| 第 13 回 | ＩＣＴを活用した生活科の授業 |
| 第 14 回 | 学習評価とこどもの表現 |
| 第 15 回 | 学期末試験（筆記試験） |

## 到達目標

・「生活科」における教科目標や子どもの学びについて理解する。（知識理解）
・生活科の９つの学習内容についての理解を深め、ＩＣＴの活用等を取り入れた教材研究ができる。（技能）
・気づきの質を高める手立てや表現活動、教師の支援の在り方を考察できる。（思考）

## 履修上の注意

・予習・復習をしっかり行い、授業内容を活用した学習指導案の作成や模擬授業に臨むこと。
・欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。

## 予習・復習

・予習：シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前に必ずテキストをよく読み、講義内容が理解できるようにしておくこと。
・復習：復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておくこと。
※予習、復習共に必ず毎回 30 分以上の時間をかけること。（質問等あれば次回の授業で対応します）

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| ・受講姿勢や授業コメント　40％ | ・学期末試験　60％ | |

## 使用教科書名

・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年（978-4-491-０３４６４-5）

# 音楽Ⅰ　～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 齊藤･一村･佐藤(千)･佐藤(良)･須田･舘岡･山口(亜) |

**※実務経験のある教員による授業科目**

## 授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を２グループに分け，クラス授業（45分）とピアノの個人レッスン（45分）を並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コード伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは，教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付ける。

## 授業計画

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス～保育者に求められる音楽能力について考える | |
| 第 2 回 | リズム唱及び童謡の歌唱（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 3 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 4 回 | Ⅰ・V7の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典② | 個人レッスン |
| 第 5 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 6 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 7 回 | 「かえるのうた」Ⅰ・V7の全調課題試験（ピアノ演奏の基礎） | 個人レッスン |
| 第 8 回 | 前奏・後奏の意義の理解と実践，楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 9 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典⑥（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 10 回 | Ⅰ・Vの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦ | 個人レッスン |
| 第 11 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 12 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 13 回 | ピアノ演奏の基礎・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導） | 個人レッスン |
| 第 14 回 | 「メリーさんの羊」Ⅰ・Vの全調課題試験及び楽典のまとめ | 個人レッスン |
| 第 15 回 | 楽典試験 | 個人レッスン |

## 到達目標

子ども達との音楽活動を通し，感性豊かな表現を目指す。教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付けるとともに，子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

## 履修上の注意

・教育実習Ⅰ（幼稚園）の派遣のための条件科目及び卒業必修科目である。
・クラス授業はML教室（音楽室）で行う。個人レッスンはレッスン室で行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかのみの出席は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

## 予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。
・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 実技試験（全調課題各10%・期末実技試験30%） | 楽典試験（30%） | 学習態度・練習状況・課題提出（20%） |

## 使用教科書名

・『３つのコードで楽らく弾ける♪ピアノ伴奏曲集』伊藤伸明編著，ドレミ楽譜出版社，2016
・『改訂 音楽通論』教芸音楽研究グループ編，教育芸術社，2009
・入学前配布資料
・その他，適宜，資料を配布する（A4サイズのスクラップブックを準備すること）

# 音楽Ⅱ　～幼児の音楽活動のための基礎～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | 必修 | 選択必修 | 選択必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 宮澤・一村・佐藤(千)・佐藤(良)・須田・舘岡・山口(亜) |

**※実務経験のある教員による授業科目**

## 授業概要

「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。幼児が楽しみながら主体的に活動する音楽あそびや歌唱指導を実践するために必要な音楽の知識や演奏技能の基礎、音楽表現の工夫を指導する。

クラス授業では、西洋音楽の基礎的な理論（楽典）を、実際に演奏する楽曲と関連付けて学習することで、生きた音楽の知識を身に付ける。また、合唱発表を通し、聴き手と一体となって楽しめるような身体表現や舞台発表の工夫について、協働的に学ぶ。ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で使用頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた（実習曲)」を必修課題とし、ト長調・ヘ長調のコード伴奏法を中心に、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付ける。また、音楽表現の幅を広げるため、個々のレベルに応じた芸術曲の演奏にも取り組む。

## 授業計画

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、楽典①ト長調・ヘ長調のコード | 個人レッスン【夏休み課題】 |
| 第 2 回 | 歌唱①大学祭発表曲・必修曲、幼児の声域と発声 | 個人レッスン【生活のうた】 |
| 第 3 回 | 歌唱②大学祭発表曲・必修曲、歌唱教材と著作権 | 個人レッスン【生活のうた】 |
| 第 4 回 | 歌唱③大学祭発表曲（歌唱と身体表現の関わり） | 個人レッスン【生活のうた】 |
| 第 5 回 | 歌唱④大学祭発表曲【リハーサル】 | |
| 第 6 回 | 歌唱⑤大学祭発表曲【演奏発表】 | |
| 第 7 回 | 歌唱⑥季節のうた（秋)、楽典②長音階の仕組み | 個人レッスン【必修曲】 |
| 第 8 回 | 楽典③和音の種類と役割（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7） | 個人レッスン【必修曲】 |
| 第 9 回 | 【中間実技試験】「生活のうた」弾き歌い | 個人レッスン【必修曲】 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り、楽典④：調の見分け方（♯の調号） | 個人レッスン（芸術曲） |
| 第11回 | 【「きらきら星」移調課題試験】①♯系3調 | 個人レッスン（芸術曲） |
| 第12回 | 楽典⑤調の見分け方（♭の調号） | 個人レッスン（芸術曲） |
| 第13回 | 【「きらきら星」移調課題試験】②♭系3調 | 個人レッスン（芸術曲） |
| 第14回 | 楽典⑥和音の転回 | 個人レッスン（芸術曲） |
| 第15回 | 【楽典試験】 | 個人レッスン（芸術曲） |

## 到達目標

・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲の良さや美しさを感じ取り、ふさわしい音楽表現を工夫して歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

## 履修上の注意

・教育実習Ⅱ（幼稚園教諭免許状取得希望者）の派遣のための条件科目及び卒業必修科目である。
・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】【「きらきら星」移調課題試験】【楽典試験】を、ピアノの個人レッスンでは【夏休みの課題】【生活のうた（実習曲)】【必修曲】の合格を必修とする。

## 予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで次回までに指示された楽曲を演奏できるように毎日練習する。
・復習：授業で学習した楽典を復習し、合格した弾き歌いの楽曲を週2回程度引き続き練習する。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 実技試験50%(中間10%・移調課題10%・期末30%) | 楽典試験30% | 学習態度・課題提出20% |

## 使用教科書名

・「音楽Ⅰ」に引き続き、『音楽通論』『3つのコードで楽らく弾ける　ピアノ伴奏集』を使用する。
・資料を配布するため、保存用のスクラップブックとのりを毎回持参すること。

# 教職･保育概論（教育制度等を含む）　～保育者・教員の責務と魅力～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 小林　佳美 |

## 授業概要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職・教職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題を題材に、保育者・教員としてその課題解決にどのように貢献できるのかを探究していく。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | イントロダクション―被保育体験から子どもにとってのうれしい保育者･教員像を考える。 |
| 第 2 回 | Society5.0 時代に生きる子どもたちの育ちを支えるために保育者に求められる資質･能力。 |
| 第 3 回 | 様々な保育施設と適性①―多様な保育施設とそこで働く保育者の 1 日にふれる。多様な保育施設をとりまく制度体系を理解する。 |
| 第 4 回 | 様々な保育施設と適性②―指針・要領の特性、及び各園の保育の理念と内容の多様性を知り、自らのキャリア選択を考える。 |
| 第 5 回 | 子どもの権利と保育者の役割①―児童の権利条約の意義と保育者の役割･倫理観を考える。 |
| 第 6 回 | 子どもの権利と保育者の役割②―個と集団を生かす保育者の役割を考える。 |
| 第 7 回 | 保育実践における保育者の専門性①―子ども主体の保育と意図的・計画な保育を考える。 |
| 第 8 回 | 保育実践における保育者の専門性②―遊びのなかの学びを理解する。 |
| 第 9 回 | 保育実践における保育者の専門性③―指針・要領から、乳児・1 歳以上 3 歳未満・3 歳以上の発達の特徴と保育のねらい・内容の関連を整理する。 |
| 第 10 回 | 子育てをとりまく現代的課題を理解し、子育て支援の基本を考える。 |
| 第 11 回 | 多様な子どもの育ちを支えるための基本概念の理解①インクルーシブ保育。 |
| 第 12 回 | 多様な子どもの育ちを支えるための基本概念の理解②養育環境の多様性。 |
| 第 13 回 | 諸外国の乳幼児教育の枠組み、及び日本における多文化共生保育の実際を理解する。 |
| 第 14 回 | 保育者の免許・資格と服務上・身分上の義務を知る。 |
| 第 15 回 | 保育者としての豊かな成長と同僚性・職業キャリア全体を通じた様々な学び方を知る。 |

## 到達目標

・現代の社会的背景を踏まえ、今日の保育者・教員に求められる役割や資質能力を理解する。
・保育者・教員に求められる職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を理解する。
・保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。
・保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。
・保育者・教員の資質向上とキャリア形成の必要性を理解する。

## 履修上の注意

・試験では手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、30 分以降の入室は欠席として扱います。

## 予習・復習

・予習：授業計画に沿って、教科書や配布する参考資料の該当箇所を一読する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 授業態度及びレポート　50% | 試験　50% | |

## 使用教科書名

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。
ただし、平成 29 年告示版『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はいつでも参照できるように準備しておくこと。

# 教育原理　～「教育とは何か」について自分なりの考えを持とう～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 必修 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 野口　周一 |

## 授業概要

昨今、子供や学校をめぐる様々な問題が噴出している。そのような状況下で、教育者・保育者を志す者には「教育」の知識が求められる。本講義では、教育の意義・目的、教育の基礎的概念と諸理論、歴史、実践など、教育学の基本的知識を指導する。さらに現代の教育問題を考えながら、「教育とは何か」という問いに自分なりの答えを得ることを目標としたい。

## 授業計画

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 人間探求から教育を考える | （1）人間の生涯と教育を扱う。 |
| 第 2 回 | 同上 | （2）発達における教育の役割を扱う。 |
| 第 3 回 | 同上 | （3）文化と教育を扱う。 |
| 第 4 回 | 歴史探求から教育を考える | （1）子ども観の歴史的変遷を扱う。 |
| 第 5 回 | 同上 | （2）欧米の教育思想と発展を扱う。 |
| 第 6 回 | 同上 | （3）　同上 |
| 第 7 回 | 同上 | （4）日本の教育思想と発展を扱う。 |
| 第 8 回 | 同上 | （5）　同上 |
| 第 9 回 | 学校の制度と歴史を学ぶ | （1）壷井栄著「二十四の瞳」を題材に考える。 |
| 第 10 回 | 同上 | （2）日本の学校制度と歴史を扱う。 |
| 第 11 回 | 同上 | （3）　同上 |
| 第 12 回 | 現代の教育問題を考える | （1）情報化社会と教育を扱う。 |
| 第 13 回 | 同上 | （2）国際化と教育を扱う。 |
| 第 14 回 | 同上 | （3）「ゆとり教育」「心の教育」を扱う。 |
| 第 15 回 | 授業のまとめ | |

## 到達目標

①「教える―学ぶ」という教育の基本的関係を、さまざまなテーマを通して学ぶ。
②　私たちは、現代日本の学校教育に大きな影響を受けていることを、きちんと認識する。
③「教育とは何か」という問いに自分なりの答えを得る。

## 履修上の注意

新聞などを通して、現代の教育問題や社会との関連に絶えず関心を持つことが望ましい。
遅刻した場合は、遅刻分の課題を課す。

## 予習・復習

・予習：講義資料を事前に配布するので、それを読み込んでくること。
・復習：検討すべき課題を指示する。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 論実試験：80% | 授業への取り組み姿勢：20% | |

## 使用教科書名

・教科書名：やさしい教育原理　第 3 版
・著 者 名：田島一　他
・出版社名：有斐閣
・出 版 年：初版 1997 年

# 保育・教育課程論　～より良い実践を志すために～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 野口　周一 |

## 授業概要

子どもたちが健やかに成長するためには、保育活動・教育活動が意図的・計画的に展開される必要がある。そのためには、子どもたちに生じている課題の解決やこれから求められる資質・能力の育成を目指し、活動の各領域や教科等の内容や内容の量や質、関連、系統にも検討を加えた長期の教育プラン（教育課程の編成）が必要となる。本講義ではその基礎的な力を育むことを目指し、指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | カリキュラムとは |
| 第 2 回 | 幼稚園教育要領について |
| 第 3 回 | 保育所保育指針について |
| 第 4 回 | 教育課程・全体的な計画と指導計画について |
| 第 5 回 | 指導計画作成のポイントについて |
| 第 6 回 | 指導計画における特別な配慮を必要とする子どもへの支援について |
| 第 7 回 | 指導計画に活かすための記録と省察について |
| 第 8 回 | 評価とカリキュラムマネジメントについて |
| 第 9 回 | 0 歳児の指導計画と実践について |
| 第 10 回 | 1・2 歳児の指導計画と実践について |
| 第 11 回 | 3・4 歳児の指導計画と実践について |
| 第 12 回 | 5 歳児の指導計画と小学校への接続について |
| 第 13 回 | 異年齢児保育の指導計画と実践について |
| 第 14 回 | 指導計画作成のための視点について |
| 第 15 回 | 授業のまとめ |

## 到達目標

常に目の前の子どもの姿と生活に即して、カリキュラムや指導計画を考え、より良い実践を志そう。

## 履修上の注意

他の関連科目と有機的に繋げて学ぼう。
遅刻した場合は、遅刻分の課題を課す。

## 予習・復習

・予習：テキストきちんと読むこと。
・復習：ほかの関連科目との繋がりを考えよう。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 課題：80% | 授業への取り組み姿勢：20% | |

## 使用教科書名

・教科書名：カリキュラム論
・著 者 名：安部孝
・出版社名：みらい
・出 版 年：2021 年

# 発達心理学　～発達的理解とはどういうことか～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 必修 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 細渕　富夫 |

## 授業概要

乳幼児期を中心に心理機能の発生と発達について取り上げる。心理機能としては、認知、運動、言語、社会性等を取り上げる予定である。発達の理論はいろいろあるが、特にピアジェ、フロイト、エリクソンの発達段階論を取り上げ講義する。心理学は専門用語が多く、人名も多数でてくるので、予習・復習をしっかりとやる必要がある。保育現場では乳幼児の発達的理解と対応はとても重要なので、がんばって学習していきましょう。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンスー授業計画と学習の進め方ー |
| 第 2 回 | 発達とは何か |
| 第 3 回 | 発達における遺伝と環境 |
| 第 4 回 | 認知の発達①ピアジェの発達段階論 |
| 第 5 回 | 認知の発達②自己中心的思考、保存など |
| 第 6 回 | 運動の発達①乳児期（原始反射と姿勢反射、歩行） |
| 第 7 回 | 運動の発達②幼児期（手指機能、把握） |
| 第 8 回 | ことばの発達①コミュニケーションの基礎 |
| 第 9 回 | ことばの発達②象徴機能、見立て遊び |
| 第 10 回 | 愛着の発達 |
| 第 11 回 | 社会性の発達 |
| 第 12 回 | 発達検査とその活用 |
| 第 13 回 | 知能検査とその活用 |
| 第 14 回 | 発達とその障害①自閉スペクトラム症の子どもたち |
| 第 15 回 | 発達とその障害②重い障害のある子どもたち |

## 到達目標

・人間発達の諸理論にういて、おおむね理解している
・発達の見方について、おおむね理解している
・発達と障害の関係について、おおむね理解している

## 履修上の注意

必修科目としてしっかり取り組んでほしい。身近に乳幼児がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察に、理解を深めてほしい。配布プリントはファイルし、整理しておくこと。

## 予習・復習

・予習：テキストの関連ページを読んでおくこと。
・復習：配布資料をファイルしつつ、関連する人名・専門用語について整理しておくこと。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 試験 70% | 授業への積極性・態度 20% | 授業中の質問 10% |

## 使用教科書名

・教科書名：『生涯発達心理学ー認知・対人関係・自己から読み解くー』
・著 者 名：鈴木忠他
・出版社名：有斐閣
・出 版 年：2016 年

# 保育内容（健康）　～子どものこころとからだの健やかな育ちとは～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | 必修 | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 安倍　大輔 |

**授業概要**

・保育所保育指針ならびに幼稚園教育要領における「健康」ではどのような子どもの育ちを目指しているのかを講義する。
・こころとからだが大いに発達する乳幼児期の基礎的な知識について講義する。主に、(1)子どものこころとからだの発達、(2)子どもの遊び、(3)基本的生活習慣の獲得、(4)安全管理・安全教育について講義する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 「健康」領域のねらいと内容 |
| 第 2 回 | 子どものからだの発達 |
| 第 3 回 | 現代の子どものこころとからだを取り巻く問題 |
| 第 4 回 | 子どもの遊び①～子どもにとって遊びとは～ |
| 第 5 回 | 子どもの遊び②～子どもの遊びを保証する取り組み～ |
| 第 6 回 | 子どもの遊び②～伝承遊び・屋外の遊び・季節の遊び～ |
| 第 7 回 | 子どもの遊びの支援① |
| 第 8 回 | 子どもの遊びの支援② |
| 第 9 回 | 基本的生活習慣① |
| 第 10 回 | 基本的生活習慣② |
| 第 11 回 | 現代社会と子どもの生活習慣 |
| 第 12 回 | 食育 |
| 第 13 回 | 安全管理・安全教育 |
| 第 14 回 | 子どもとメディア |
| 第 15 回 | 保育内容健康のまとめ |

**到達目標**

① 子どものこころとからだの発達について理解する。
② 子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たしている役割を理解する。
③ 保育・幼児教育における安全管理・安全教育の内容と方法を習得する。
現代の子どもの健康を取り巻く諸問題について理解する。

**履修上の注意**

必ず教科書を購入し受講すること。遅刻は３回で１回の欠席とする。

**予習・復習**

・予習：日常的にインターネットや新聞等を通じて子どもの健康について関心を持ち情報を得るとともに、そうした諸問題について自分の考えを持つようにして欲しい。
・復習：教科書・配布資料でその日の内容を振り返り、質問があれば次回の授業でして欲しい。

| | | |
|---|---|---|
| 筆記試験 60% | 中間小レポート 40% | % |

・教科書名：新版　保育者をめざす　保育内容「健康」
・著 者 名：安倍大輔・井筒紫乃・川田裕次郎
・出版社名：圭文社
・出 版 年：2019 年

# 保育内容（言葉）　～子どもの言葉の発達を理解し支える～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 1 | 必修 | 必修 | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 大橋・佐々木 |

## 授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的、ねらい、内容について、および0歳から5歳までの具体的な子どもの姿を理解した上で、乳児・幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育を構想し、指導する方法を指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス：保育内容（言葉）とは |
| 第 2 回 | 言葉をめぐるワークショップ：言葉による遊び |
| 第 3 回 | 保育の基本と保育の専門性 |
| 第 4 回 | 言葉の獲得を支える環境：メディア・文化財の関わり |
| 第 5 回 | 乳幼児の言葉の発達を支えているもの |
| 第 6 回 | 乳幼児の言葉の発達をどのように理解するか |
| 第 7 回 | 領域「言葉」の保育の実際（DVD 視聴覚教材） |
| 第 8 回 | 領域「言葉」の実践上の留意点①　挨拶、文字や本への興味、保幼小連携 |
| 第 9 回 | 領域「言葉」の実践上の留意点②　絵本や物語の効用、言葉の感覚 |
| 第 10 回 | 子どもの育ちを支える①　絵本と紙芝居 |
| 第 11 回 | 子どもの育ちを支える②　劇遊び（シアター教材、ペープサートの製作） |
| 第 12 回 | 子どもの育ちを支える③　劇遊び（ペープサートの実演） |
| 第 13 回 | 子どもの育ちを支える④　お話づくり遊び |
| 第 14 回 | 子どもの育ちを支える⑤　絵本の読み聞かせ（実演）と指導案の作成 |
| 第 15 回 | 子どもの育ちを支える⑥　絵本の読み聞かせ（実演）と指導案の省察と修正 |

## 到達目標

・保育内容の領域「言葉」の意義、ねらい、内容を踏まえて子どもの発達を理解する。
・領域「言葉」に関する具体的な場面を想定して教材を選択し、指導法を作成できる。
・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、実演を含む基礎的な知識を身につける。

## 履修上の注意

・実演を含むグループワークに際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・製作物の準備や改良は、授業の事前事後に行うこと。
・製作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出する。

## 予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演や発表の準備
・復習：製作物の改良や授業内容の振り返り

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 実演・発表・製作物　50% | 期末レポート　30% | 授業シート、指導案など　20% |

## 使用教科書名

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著 者 名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年：2022 年

## 保育内容（表現・音楽）　～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | 必修 | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 齊藤　淳子 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・実践的に理解を深める。また，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして，保幼少連携の在り方について指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび，声で奏でる①わらべうたあそび～ |
| 第 2 回 | 楽器で奏でる②～楽器の基本奏法を知ろう（太鼓・チャンチキ・篠笛等を含む）～ |
| 第 3 回 | 楽器で奏でる③～アンサンブルをつくろう（創作お囃子）～ |
| 第 4 回 | 楽器で奏でる④～創作曲を練り，曲を完成させる～ |
| 第 5 回 | 舞台発表の演習及びリハーサル（ICT 及び教材の活用を含む） |
| 第 6 回 | 舞台発表の本番（舞台設置・セッティング・演奏・舞台撤去等の体験） |
| 第 7 回 | 舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る |
| 第 8 回 | 手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび・手話の歌～ |
| 第 9 回 | 声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習１～ |
| 第 10 回 | 声で奏でる③～童謡をア・カペラで 100 曲演習２～ |
| 第 11 回 | 手で奏でる・身体で奏でる②～リトミックとリズムあそび～ |
| 第 12 回 | 身近な素材で奏でる～身の回りの音素材探し・音から音楽へ（ICT の活用を含む）～ |
| 第 13 回 | 楽器で奏でる⑤～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～ |
| 第 14 回 | 絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～ |
| 第 15 回 | まとめ～総合的な音楽表現～ |

**到達目標**

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・童謡 100 曲（歌），楽器奏法 30 種類，手遊び 20 曲，創作能力を修得する。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する（レポート）
・こどもの音楽あそびについてＰＤＣＡサイクル「計画(Ｐ)→実践(Ｄ)→評価(Ｃ)→改善(Ａ)」で実践できる能力を身につける。

**履修上の注意**

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して音楽づくりを進めること。
・積極的に様々な音楽表現を体験すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとします。

**予習・復習**

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。
・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 実技試験（60%） | レポート（20%） | 学習態度・提出物（20%） |

**使用教科書名**

・教科書名：『アイディアいっぱい 保育者のための音楽表現』金指初恵（編著）大学図書出版
＊参考図書：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』
＊その他，適宜，資料を配布する（A4 サイズのスクラップブックを準備すること）

# 保育内容(表現･造形) Ⅰ　～子どもに関わる造形表現の基礎～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1 年 | 前期 | 1 | 選択 | 必修 | － | 選択必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 木谷　安憲 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

## 授業概要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。

そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、授業全体を通して指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 授業スケジュールと材料・用具の説明（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第 2 回 | 色紙を使った「自分の名前デザイン」 |
| 第 3 回 | 色彩表現Ⅰ　色の三原色を使った色彩あそび |
| 第 4 回 | 色彩表現Ⅱ　色の三原色と白・黒を使った色彩あそび |
| 第 5 回 | 色彩表現Ⅲ　色の三原色を使った絵画あそび |
| 第 6 回 | 色紙と絵具を使った絵画遊び |
| 第 7 回 | 幼稚園教育要領について |
| 第 8 回 | 絵の活動を考えるⅠ　幼稚園でできる絵画の製作 |
| 第 9 回 | 絵の活動を考えるⅡ　幼稚園での絵画活動　導入のプレゼンテーション |
| 第 10 回 | 絵の活動を考えるⅢ　クラス単位での模擬授業 |
| 第 11 回 | 絵の活動を考えるⅣ　クラス単位での壁面装飾風共同制作 |
| 第 12 回 | 絵画制作　ごしごしあそび　かたつむりを描く |
| 第 13 回 | 絵画制作　どこから描いたらいいのあそび |
| 第 14 回 | 絵画制作　こすりだしあそび　フロッタージュなどの技法習得 |
| 第 15 回 | おなまえ絵本制作 |

## 到達目標

造形活動を楽しむことができるようになる。

感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。

指導者の立場で活動を考えられるようになる。

## 履修上の注意

保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。

絵の具セットを毎回持参する。

ハサミ、のりは毎回持参する。

30 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻３回で１回の欠席とする

## 予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 提出課題（60%） | 試験（30%） | 授業態度（10%） |

## 使用教科書名

・教科書名：子どもの造形表現―ワークシートで学ぶ

・著 者 名：畠山智宏・ 北沢昌代・中村光絵

・出版社名：開成出版

・出 版 年：第 2 版 2019 年

# 保育内容（表現・造形）Ⅱ　～子どもに関わる造形表現の応用～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | 必修 | － | 選択必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 木谷　安憲 |

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。
　また、自分が表現するだけではなく園児に対してどのような指導を行えばよいのかを、授業全体を通して考えていき、模擬授業ができるまでの技術を身につけられるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | おなまえ絵本発表スピーチ |
| 第 2 回 | 壁面装飾Ⅰ　下絵・製作 |
| 第 3 回 | 壁面装飾Ⅱ　製作 |
| 第 4 回 | 壁面装飾Ⅲ　製作・展示 |
| 第 5 回 | 表現技法Ⅰ　ローラーあそび |
| 第 6 回 | 表現技法Ⅱ　滲み絵あそび |
| 第 7 回 | 表現技法Ⅲ　染め絵あそび |
| 第 8 回 | 立体の活動を考えるⅠ　幼稚園でできる立体の製作 |
| 第 9 回 | 立体の活動を考えるⅡ　幼稚園での製作活動　導入のプレゼンテーション |
| 第 10 回 | 立体の活動を考えるⅢ　幼稚園での製作活動　活動の展開と応用 |
| 第 11 回 | 詩画作品制作　はじめての幼稚園実習の体験をもとにして |
| 第 12 回 | 絵画制作　こどもに戻って絵をかこう　保育者の視点でのこども理解 |
| 第 13 回 | クリスマス装飾制作 |
| 第 14 回 | 人物イラストの練習　園児にみたてた似顔絵制作とメッセージ書き |
| 第 15 回 | まとめ・振り返り（情報機器及び教材の活用を含む） |

## 到達目標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

## 履修上の注意

保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
30 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻３回で１回の欠席とする

## 予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。
・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 提出課題（60%） | 試験（30%） | 授業態度（10%） |

## 使用教科書名

・教科書名：子どもの造形表現―ワークシートで学ぶ
・著者名：畠山智宏・ 北沢昌代・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出版年：第 2 版 2019 年

# 子どもと健康　～ねらいと内容～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 小山内弘和 |

## 授業概要

保育内容の領域「健康」のねらい・内容を基に、子どもの発達や特徴と生活習慣の結びつきや安全管理の観点から理解するよう、保育者の役割について講義する。幼児期に健康な心と体を身に付けるために必要な知識や技能を養うための保育を検討・実践できるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 領域「健康」：オリエンテーション |
| 第 2 回 | 健康の定義と幼児期の健康の意義 |
| 第 3 回 | 乳幼児期の心身の発達と運動発達の特徴などの健康課題 |
| 第 4 回 | 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義 |
| 第 5 回 | 乳幼児の健康、心と体や生活習慣ついての課題と対策の検討（ICT の活用を含む） |
| 第 6 回 | 幼児の安全教育・健康管理に関する基本 |
| 第 7 回 | 幼児期の怪我の特徴や病気の予防 |
| 第 8 回 | 危険の理解と安全管理、リスクとハザード |
| 第 9 回 | 乳児期の安全管理、健康管理についての検討（ICT の活用を含む） |
| 第 10 回 | 乳幼児期の運動発達の特徴 |
| 第 11 回 | 幼児期における多様な動きの獲得とその意義 |
| 第 12 回 | 幼児期の日常生活における動きの経験と身体活動の在り方 |
| 第 13 回 | 領域「健康」から考える運動遊びの検討　①作成（ICT の活用を含む） |
| 第 14 回 | 領域「健康」から考える運動遊びの検討　②実践・評価・分析と修正 |
| 第 15 回 | 領域「健康」のまとめ |

## 到達目標

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。

- 乳幼児期の健康課題、健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
- 乳幼児期の体の発達的特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
- 幼児期の安全教育・健康管理の基本を理解し、幼児期のけがの特徴や病気の予防について説明できるとともに、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を理解する。

日常生活における幼児の動きの経験や配慮や多様な動きを獲得することの意義を理解し、乳幼児期の運動発達特徴を説明できる。

## 履修上の注意

- 遅刻は 3 回で欠席 1 回とする。
- 話し合いには積極的に参加し、自分の意見と他者の意見を摺り合わせる中で学びを深めていくように努力すること。

## 予習・復習

- 予習：必要な授業内容を確認し、授業に備える。
- 復習：学習内容を再度確認し、学習内容の定着に繋げる。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 授業への貢献度及び授業態度 20% | 提出物等　20% | テスト　60% |

## 使用教科書名

- 教科書名：〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ　保育内容・領域　健康
- 著 者 名：清水将之、相楽真樹子
- 出版社名：わかば社
- 出 版 年：2018 年

# 子どもと人間関係　～「わたし」から「わたしたち」へ～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 岩崎　桂子 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

## 授業概要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。毎回、DVD の視聴を通して子どもの育ちの姿について理解する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 現代社会と人間関係－時代や場所、社会システムとの関係について－ |
| 第 2 回 | 人間関係を築くのに必要な力－乳幼児期の経験とその後の人間関係について－ |
| 第 3 回 | 保育における「人間関係」－領域「人間関係」について、他の領域との関連について－ |
| 第 4 回 | 保育者が作る「人間関係」－子ども・保護者・地域や専門機関などとの関係について－ |
| 第 5 回 | 3歳未満児における人間関係の発達－身近な大人との関係について－ |
| 第 6 回 | 3歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－ |
| 第 7 回 | 4歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－ |
| 第 8 回 | 5歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－ |
| 第 9 回 | 6歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－ |
| 第 10 回 | 幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係について－ |
| 第 11 回 | 多様化する「人間関係」－模範意識・道徳性、多様な価値観等について－ |
| 第 12 回 | グループワーク－保育場面から人間関係の育ちを考察する－ |
| 第 13 回 | グループワーク発表①－グループ 1～5－ |
| 第 14 回 | グループワーク発表②－グループ 6～10－ |
| 第 15 回 | まとめ－育ちゆく保育者としての学びあい－ |

## 到達目標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。

② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。

③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

## 履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。

## 予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 学期末試験　50% | 授業内課題　30% | 受講態度　20% |

## 使用教科書名

・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-第 2 版
・著 者 名：編者：横山真貴・出版社：教育情報出版

# 子どもと言葉　～領域「言葉」に関する専門的な知識を学ぶ～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 大橋・佐々木 |

## 授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的、ねらい、内容について、0歳から5歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解し、保育者の役割について講義する。

幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育を構想し、指導する方法を指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション：領域「言葉」を学ぶ |
| 第 2 回 | 言葉をめぐるワークショップ：人間と言葉 |
| 第 3 回 | 言葉の機能①　言葉の３つの機能―伝達、思考、行動調整― |
| 第 4 回 | 言葉の機能②　子どもの姿を言葉の機能から考える |
| 第 5 回 | 言葉の発達①　言葉の発達理論　各年齢の特徴と成長の道筋 |
| 第 6 回 | 言葉の発達②　事例文やDVD視聴覚教材を通して、各年齢の子どもの姿を確認する |
| 第 7 回 | 領域「言葉」①　5領域の考え方と「10の姿」、3歳児未満までのねらいと内容 |
| 第 8 回 | 領域「言葉」②　3,4,5歳児のねらいと内容、内容の取扱い |
| 第 9 回 | 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども①　障害や虐待、成長過程との関係など |
| 第10回 | 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども②　日本語を母語としない子ども |
| 第11回 | 児童文化財①　児童文化財とは何か、種類と特徴 |
| 第12回 | 児童文化財②　言葉あそびの種類と特徴 |
| 第13回 | 児童文化財③　絵本と紙芝居「読み聞かせ」と「実演」の仕方 |
| 第14回 | 児童文化財④　紙芝居の実演　実演前の練習と「導入／まとめ」の意識 |
| 第15回 | 児童文化財⑤　紙芝居の実演　実演および事後の考察と指導展開の省察 |

## 到達目標

・言葉の意義と機能、幼児の言葉の発達過程と言葉の機能を説明できる。
・言葉の感覚を豊かにする実践の基礎を身につけ、幼児の発達の姿を意識して説明できる。
・幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。
・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、実演を含む基礎的な知識を身につける。

## 履修上の注意

・実演を含むグループワークに際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート（ミニ・レポート）」を提出してもらい、評価対象とする。

## 予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演の準備
・復習：授業内容の振り返り

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 定期試験　60% | 実演などの授業内課題　30% | 授業の振り返り課題　10% |

## 使用教科書名

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著 者 名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年：2022年

# 子どもと表現　～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 木谷･齊藤･宮澤 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解 |
| 第 2 回 | 乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解（担当：宮澤） |
| 第 3 回 | イメージを音や声で表現する（担当：宮澤） |
| 第 4 回 | 子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開（担当：宮澤） |
| 第 5 回 | 豊かな音楽活動 ―音楽表現から総合的な表現への広がり―（担当：宮澤） |
| 第 6 回 | 乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解（担当：木谷） |
| 第 7 回 | 子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開（担当：木谷） |
| 第 8 回 | イメージを色や形で表現する（担当：木谷） |
| 第 9 回 | 豊かな表現活動 ―造形表現から総合的な表現への広がり―（担当：木谷） |
| 第 10 回 | 子どもの身体表現と身体的発達の理解（担当：齊藤） |
| 第 11 回 | イメージを身体で表現する（担当：齊藤） |
| 第 12 回 | 子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開（担当：齊藤） |
| 第 13 回 | 豊かな表現活動 ―身体表現から総合的な表現への広がり―（担当：齊藤） |
| 第 14 回 | 音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動 |
| 第 15 回 | 表現活動における ICT の活用と学習の総括 |

**到達目標**

（1）幼児の表現の姿や、その発達を理解する。（2）身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

**履修上の注意**

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。

**予習・復習**

・予習：様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。
・復習：子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 授業での気付きや振り返りなどの記録を中心に、学びの過程を評価する（60%） | 学びを生かした表現のグループ発表を評価する（10%） | 学習の総括で学びの成果を評価する（30%）。 |

**使用教科書名**

・教科書名：①保育者養成のための子どもと音楽表現　②ずこうことばでかんがえる　・著 者 名：①宮澤多英子　②きだにやすのり・出版社名：①一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版　②HH.A.B.・出 版 年：①2021 年 ②2017 年
③幼稚園教育要領（平成 29 年告示　文部科学省）、④保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、⑤幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

# 初等教科教育法（国語）　～伝え合う力の育成を目指す授業の工夫～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 大橋　修一 |

**授業概要**

小学校学習指導要領をもとに国語科の意義や特質、目標、内容を理解させ、言語活動の充実化を図る国語科授業の創造をめざすことを目的とする。児童の実態把握の仕方、言語活動の工夫と評価、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業（４回）の展開、板書の仕方などが授業内容であり、講義と演習、ディスカッションを中心に展開をする。国語科は言語で認識し、言語で考え、言語で創造し、言語で伝達するという言語の機能を習得させることが重要な教科である。本講義では、言語による伝え合う力の育成を具現化する授業の在り方について、教育現場の実践的研究を踏まえて追求するよう指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 国語科の意義や特質、国語科の目標（学習指導要領を参考にする。） |
| 第 2 回 | 国語科の内容、学年ごとの系統性（学習指導要領を参考にする。） |
| 第 3 回 | 国語科で求められている力、国語科授業の在り方 |
| 第 4 回 | 児童実態の把握の仕方 |
| 第 5 回 | 身につけたい力に応じた言語活動の工夫 |
| 第 6 回 | 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の評価 |
| 第 7 回 | 教育現場での実践的資料による様々な言語活動 |
| 第 8 回 | 国語科におけるコミュニケーション能力、伝え合う力の育成 |
| 第 9 回 | 教科書教材『ごんぎつね』で教材研究 |
| 第 10 回 | 『ごんぎつね』をもとにした国語科学習指導案の作成 |
| 第 11 回 | 『ごんぎつね』の模擬授業①を通して、工夫されている点や改善点について討議 |
| 第 12 回 | 『ごんぎつね』の模擬授業②を通して、工夫されている点や改善点について討議 |
| 第 13 回 | 教科書教材『スイミー』で教材研究 |
| 第 14 回 | 『スイミー』をもとにした国語科学習指導案の作成 |
| 第 15 回 | 『スイミー』の模擬授業①を通して、工夫されている点や改善点について討議 |

**到達目標**

・小学校国語科の目標と内容、学年ごとの系統性について理解し、言語活動を重視した国語科の指導法について捉えることができる。
・教材研究の仕方が分かり、伝え合う力の育成をめざした「国語科学習指導案」を作成することができる。
・討議やディスカッション等において、自分の考えや感想、意見をもち述べることができる。

**履修上の注意**

欠席をする場合は、その理由を指導者に連絡をする。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

**予習・復習**

・予習：学習指導案の模範例を修得しておく。
・復習：模擬授業を通して学んだ内容を各自検討する。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 学期末試験 70% | 授業内レポートおよび宿題 20% | 受講態度 10% |

**使用教科書名**

「小学校学習指導要領解説　国語編」（文部科学省）

# 初等教科教育法（社会）　～社会科の授業を創る～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼　秀明 |

## 授業概要

学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行なう方法を身に付けられるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 社会科の目標及び内容（1）教科の目標・内容と全体構造 |
| 第 2 回 | 社会科の目標及び内容（2）第３学年・第４学年の目標・内容と教材研究 |
| 第 3 回 | 社会科の目標及び内容（3）第５学年の目標・内容と教材研究 |
| 第 4 回 | 社会科の目標及び内容（4）第６学年の目標・内容と教材研究 |
| 第 5 回 | 社会科の目標及び内容（5）指導上の留意点と学習評価（第３学年・第４学年） |
| 第 6 回 | 社会科の目標及び内容（6）指導上の留意点と学習評価（第５学年） |
| 第 7 回 | 社会科の目標及び内容（7）指導上の留意点と学習評価（第６学年） |
| 第 8 回 | 社会科の目標及び内容（8）発展的な学習内容の探究 |
| 第 9 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（1）子どもの実態を視野に入れた授業設計 |
| 第 10 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（2）情報機器及び教材の効果的な活用法 |
| 第 11 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（3）授業設計と学習指導案作成 |
| 第 12 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（4）模擬授業の実施と授業改善の視点（第３・第４学年） |
| 第 13 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（5）模擬授業の実施と授業改善の視点（第５学年） |
| 第 14 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（6）模擬授業の実施と授業改善の視点（第６学年） |
| 第 15 回 | 当該教科の指導方法と授業設計（7）社会科の実践研究の動向 |

## 到達目標

**社会科における教育目標を理解し、小学校教諭として社会科を指導できる資質・能力を理解するとともに、授業設計を行なう方法を身に付ける。**

## 履修上の注意

**※この科目は教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。**

**毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。**

**学習指導要領に示された社会科の目標および内容を十分に理解することが必要になるので、「社会」とあわせて履修してくれることを強く希望します。**

遅刻２回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

## 予習・復習

**・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。**
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

## 評価方法

授業の成果（模擬授業を含む）100%

## 使用教科書名

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年：平成 30 年

# 初等教科教育法（理科）　～教師として必要な知識・技能の獲得と授業づくりを目指して～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 2 | 選択 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長友　大幸 |

## 授業概要

小学校理科の目標・学習指導・評価のあり方について，具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また，模擬授業を通してあるべき小学校の理科授業について検討し，理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション，理科教育の現実と日本の子どもの理科学力の実態 |
| 第 2 回 | 理科教育の価値と目的 |
| 第 3 回 | 授業・日常経験を通した科学概念の形成とその探り方 |
| 第 4 回 | 小学校理科の教科書の単元構成とその内容 |
| 第 5 回 | 小学校理科学習指導案の構成内容とその作成 |
| 第 6 回 | 小学校における授業実践例 |
| 第 7 回 | 理科学習の評価とその方法 |
| 第 8 回 | 教材準備の重要性と模擬授業にむけた予備実験 |
| 第 9 回 | 模擬授業（3 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う） |
| 第 10 回 | 模擬授業（4 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う） |
| 第 11 回 | 模擬授業（5 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う） |
| 第 12 回 | 模擬授業（6 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う） |
| 第 13 回 | 理科教育の現代的諸問題（学校種間の接続，他教科との連携，環境教育など） |
| 第 14 回 | 理科教育の現代的諸問題（疑似科学に対する理科教育の役割） |
| 第 15 回 | まとめ |

第 6～12 回にかけて実習や実験・観察を取り扱う。

## 到達目標

1. 小学校理科を中心に理科の目標・内容・評価等について，学習指導要領を踏まえながら理解する。
2. 児童の自然認識について考察し，それに基づく授業のあり方を理解する。
3. 実際に予備実験を行い，指導案を作成して模擬授業を行う。授業後，検討会を行い，授業デザインについて理解を深める。
4. 理科教育に関連する現代的諸問題について理解する。

## 履修上の注意

自身の模擬授業を無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。遅刻の取り扱いは，遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

## 予習・復習

予習として、模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成など，事前に自主的な学習や作業が必要になる。復習としては、知識や実験技能の定着を図る小テストを毎時間に行うので、それに対応できる復習が必要である。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 授業の取り組み(10%) | 課題やレポート及び模擬授業(50%) | 試験の成績（40%) |

欠席が 1／3 を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので十分注意すること。

## 使用教科書名

・教科書名：授業をつくる！　最新小学校理科教育法　～2017 学習指導要領準拠～
・著者名：左巻健男他　・出版社名：学文社　・出版年（ISBN）：2018 年（978-4-7620-2772-7）
・その他は適宜印刷して配布するが，以下のものを用意しておくことが望ましい。
　小学校 3～6 年生の教科書「たのしい理科」（大日本図書：令和 2 年度版），
　小学校学習指導要領解説　理科編（最新版）

# 道徳の指導法　～道徳教育とは何か～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | 必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼　秀明 |

## 授業概要

道徳の意義や原理等をふまえ、道徳教育、および、その要となる道徳科について具体的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付けられるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 道徳の理論（1）道徳の本質（道徳とは何か） |
| 第 2 回 | 道徳の理論（2）道徳教育の歴史 |
| 第 3 回 | 道徳の理論（3）現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） |
| 第 4 回 | 道徳の理論（4）子どもの心の成長と道徳性の発達 |
| 第 5 回 | 道徳の理論（5）学習指導要領に示された道徳教育および道徳科の目標と主な内容 |
| 第 6 回 | 道徳の指導法（1）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要となる道徳科 |
| 第 7 回 | 道徳の指導法（2）道徳教育の指導計画および教育活動全体を通じた指導 |
| 第 8 回 | 道徳の指導法（3）道徳科の特質を生かした多様な指導方法 |
| 第 9 回 | 道徳の指導法（4）道徳科の教材の特徴をふまえた授業設計 |
| 第 10 回 | 道徳の指導法（5）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成①目標設定 |
| 第 11 回 | 道徳の指導法（6）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成②内容 |
| 第 12 回 | 道徳の指導法（7）道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方 |
| 第 13 回 | 道徳の指導法（8）模擬授業の実施と授業改善の視点①模擬授業の内容吟味 |
| 第 14 回 | 道徳の指導法（9）模擬授業の実施と授業改善の視点②他教科との関連 |
| 第 15 回 | 道徳の指導法（１０）模擬授業の実施と授業改善の視点③授業改善 |

## 到達目標

学校の教育活動全体を通じて行なう道徳教育。および、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、実践的な指導力を身に付ける。

## 履修上の注意

※この科目は教育実習Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

## 予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

## 評価方法

| | |
|---|---|
| 授業の成果 55% | 筆記試験の得点 45% |

## 使用教科書名

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：廣済堂あかつき
・出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』
・著者名：文部科学省
・出版社名：東山書房
・出版年：平成 30 年

# 児童文化　～知っておくべき子どもの文化～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 佐々木美和 |

## 授業概要

大人が子どもに与えるモノだけでなく、子ども自身が創り出す文化や衣食住を含む子どもを取り巻く環境にも視野を広げて、「児童文化」について講義する。一つひとつの児童文化財や遊び、玩具などへの探究を通して、保育者が身につけておくべき基本知識と、その知識を現場で生かすための技能の双方を指導する。

授業では、児童文化財による教材製作や実演、折り紙やあやとり、伝承遊びなどの実践を通して、その特徴や楽しさを体感してもらう。加えて、保育者の立場に立って、こうした教材（玩具や遊具）の効果的な活用を考える。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス：「児童文化」について（児童文化に関するアンケートを実施） |
| 第 2 回 | 子どもにとっての「遊び」：遊びの成立要件としての「三間」 |
| 第 3 回 | 児童文化財①　絵本と紙芝居とテレビアニメ |
| 第 4 回 | 児童文化財②　読み聞かせと読み合いの違い（赤ちゃん絵本について） |
| 第 5 回 | 児童文化財③　ペープサートとシアターとパペット（パペットの構想） |
| 第 6 回 | 児童文化財④　パペットの製作と活用の仕方 |
| 第 7 回 | 子どもの遊び①　折り紙 |
| 第 8 回 | 子どもの遊び②　あやとり |
| 第 9 回 | 子どもの遊び③　伝承行事と伝承遊び（福笑いの製作と活用） |
| 第 10 回 | 教育実習での活動報告 |
| 第 11 回 | 子どもの遊び④　唄あそび（かぞえ唄や替え歌）と「学校の怪談」 |
| 第 12 回 | 子どもの遊び⑤　伝承遊び |
| 第 13 回 | 子どもの生活と社会　児童向け文化施設、多文化社会、ジェンダー概念、共遊玩具等 |
| 第 14 回 | 発表会①　パペット実演と調べもの学習課題の報告 |
| 第 15 回 | 発表会②　パペット実演と調べもの学習課題の報告 |

## 到達目標

・「児童文化」に関する基本的な知識を身につける。
・子どもを取り巻く文化環境について学び、保育者の視点に立って考える力を身につける。
・実際に「児童文化財」を用いて遊びを構築し、実演する技能を身につける。

## 履修上の注意

・実演や発表に際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・製作物の準備や改良は、授業の事前事後に行うこと。
・製作課題で使用する材料や道具は、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。
・「絵本リスト」は 15 回授業の終了時までに提出を求めるので、計画的に調べておくこと。
・遅刻は 3 回で 1 回の欠席とみなす。

## 予習・復習

・予習：配布資料を読む、実演課題の練習、製作物の準備
・復習：授業内で行った実演の練習、製作物の改良

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 実演・発表・製作物　50% | 課題レポート　20% | 絵本リスト等提出物　30% |

## 使用教科書名

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

# 社会的養護Ⅰ　～子どもの権利擁護と自立支援～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 小堀　哲郎 |

## 授業概要

この授業では、子どもの養護のうち、社会で子どもの養育を担う「社会的養護」、中でも「施設養護」と呼ばれる領域を中心に学ぶことになる。その際に重要となる考え方が「子どもの権利擁護」と「自立支援」である。これらを十分に理解してもらえるように講義する。また、視聴覚教材を援用して、児童福祉施設に対する具体的なイメージをもってもらえるように工夫をして講義する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 子どもの社会的養護 |
| 第 2 回 | 日本における社会的養護のしくみ |
| 第 3 回 | 社会的養護に携わる専門職 |
| 第 4 回 | 家庭支援の理論と実践 |
| 第 5 回 | 家庭的養護の理念と里親制度 |
| 第 6 回 | 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障 |
| 第 7 回 | 児童養護施設の歴史と自立支援 |
| 第 8 回 | 非行のある子どもの自立支援 |
| 第 9 回 | 情緒障がいのある子どもの社会的養護 |
| 第 10 回 | 知的障がいのある子どもの社会的養護 |
| 第 11 回 | 身体的障がいのあるこどもの社会的養護 |
| 第 12 回 | 児童養護施設における子どもの権利擁護 |
| 第 13 回 | 当事者からみた日本の社会的養護 |
| 第 14 回 | 施設の運営 |
| 第 15 回 | まとめ |

## 到達目標

1. 保育士の仕事の幅の広さについての理解を深める。
2. 保育所実習（施設）の事前学習の意味を含め、児童福祉施設の種別とそれぞれの施設の特徴を理解する。
3. 社会的養護の原理や理念、仕組みについての理解を確かなものにしていく。

## 履修上の注意

1. 遅刻・早退は 3 回につき 1 回の欠席とし、授業回数の 3 分の 2 以上の出席のない場合には、期末試験を受けることができない。
2. 毎回の授業終了時に 400 字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。
3. 私語その他、他の学生に迷惑になる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

## 予習・復習

・予習：日々のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める努力をすること。
　　事前に課題を出してある場合には、必ずやってから授業に参加すること。
・復習：授業で取

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 期末試験　60% | 授業内レポート 40% | |

## 使用教科書名

教科書は使用しない。毎回資料を配布する。

# 社会的養護Ⅱ　～子どもの自立を支援する～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 小堀　哲郎 |

## 授業概要

この授業では、社会的養護Ⅰで学んだ内容を基礎として、さらに知識を深めると同時に、社会的養護の実際的場面を想定しながらのグループワークやディスカッションを通じて、実践的な学びを指導する。また、施設実習の事前学習の意味があるので、個別支援計画や記録の取り方、自己評価の視点などについても、具体的に指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 社会的養護における子どもの理解 |
| 第 2 回 | 日常生活支援 |
| 第 3 回 | 治療的支援 |
| 第 4 回 | 自立支援 |
| 第 5 回 | 施設養護の生活特性及び実際① |
| 第 6 回 | 施設養護の生活特性及び実際① |
| 第 7 回 | 施設養護の生活特性及び実際① |
| 第 8 回 | 施設養護の生活特性及び実際① |
| 第 9 回 | 家庭養護の生活特性と実際 |
| 第 10 回 | アセスメントと個別支援計画の作成 |
| 第 11 回 | 記録及び自己評価 |
| 第 12 回 | 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 |
| 第 13 回 | 社会的養護に関わる知識・技術とその実践 |
| 第 14 回 | 社会的養護における家庭支援 |
| 第 15 回 | 社会的養護の課題と展望 |

## 到達目標

1．子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2．施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3．社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4．社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5．社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

## 履修上の注意

1．　遅刻・早退は 3 回につき 1 回の欠席とし、授業回数の 3 分の 2 以上の出席のない場合には、期末試験を受けることができない。
2．毎回の授業で「授業内レポート」または「ワークシート」等を作成提出し、評価に算入する。
3．私語その他、他の学生に迷惑になる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

## 予習・復習

・予習：日々のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める努力をすること。
　　事前に課題を出してある場合には、必ずやってから授業に参加すること。
・復習：授業で取り上げた内容については、十分に理解し、覚えるべきものは確実に覚えること。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 期末試験　60% | 授業内レポート等提出物　40% | |

## 使用教科書名

・教科書名：『新版　保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』（みらい）

# 保育原理　～保育力の基盤を培う保育原理～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 必修 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 島田　和幸 |

## 授業概要

幼稚園・保育所などで行われる「子どもを育む保育」とは、一体、どのような考え方に基づいて行われているのであろうか。この授業は、保育の意義や目的、保育の歴史、保育計画と評価、保育制度、遊びと援助などの保育に関する基礎的・基本的な学習を通して、保育力の基盤を培う学習となる。ここでの学びが、保育者としてのこども理解や援助、コミュニケーション力、指導力、協働性等の保育者に求められる保育力の基盤づくりにつながる講義を進めていく。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 保育の意義と保育所・幼稚園などの役割 |
| 第 3 回 | 保育思想の歴史的変遷（海外） |
| 第 4 回 | 保育思想の歴史的変遷（日本・明治期～大正期） |
| 第 5 回 | 保育思想の歴史的変遷（日本・昭和期以降） |
| 第 6 回 | こども観の変化と子ども理解 |
| 第 7 回 | 子どもの人的・物的環境 |
| 第 8 回 | 保育所保育のねらい・内容・原理 |
| 第 9 回 | 保育の計画 |
| 第 10 回 | 保育の評価 |
| 第 11 回 | 保育と健康・安全 |
| 第 12 回 | 保育と子育て支援 |
| 第 13 回 | 保育と社会のニーズ |
| 第 14 回 | 家庭・地域との連携と評価 |
| 第 15 回 | 保育の現状と課題・学習のまとめ |

## 到達目標

1．保育の意義、目的、方法などに関する基本原理や考え方を習得し人に説明できる（知識・技能）。
2．日本の保育の現状や課題について要点をまとめながら小論文や口頭で表現している（思考・表現）。
3．保育の考え方について、グループ討議や発表に自ら進んで参加しようとする（主体的意欲・態度）。

## 履修上の注意

単位修得のためには、最低でも 10 回の出席（無遅刻・無早退の 10 回）が絶対不可欠となる。授業では、グループ内での協議や演習等を重視し、筆記試験は「小論文」形式で実施する。

## 予習・復習

・予習：シラバスを読み受講前に事前学習をし，予備知識の把握、学習意欲を高めてほしい。
・復習：授業ごとに配布される学習ノートと補助資料をファイリングし、必ず復習を行ってほしい。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 定期試験　６０％ | 課題提出物の内容　２０％ | 演習時の課題　２０％ |

## 使用教科書名

・テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の参考書も活用してほしい。
『最新保育講座１　保育原理』（森本史朗・小林紀子・若月芳浩編）・ミネルヴァ書房・2000 円

# 子どもの保健　～保育所における保健活動を学ぶ～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 熊坂　隆行 |

**授業概要**

子どもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、子どもの発育や身体的特徴を理解し、子どものとの接し方について総合的に学ぶ。保育者として必要な保健の知識を習得し、子どもの事故や安全対策について基本的な対応、実践力を身につける。小児保健の意義、小児の生理的機能、運動機能の発達と保健、先天異常の理解と保健のほか、子どもの事故や安全対策について基本的な対応についても指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 保育における子どもの保健 |
| 第 2 回 | 子どもの健康と保健の意義 |
| 第 3 回 | 子どもの発育と保健 |
| 第 4 回 | 子どもの生理機能の発達と保健 |
| 第 5 回 | 子どもの運動機能の発達と保健 |
| 第 6 回 | 子どもの感染病の予防と対策 |
| 第 7 回 | アレルギー疾病 |
| 第 8 回 | 子どもの健康状態の把握について |
| 第 9 回 | 先天異常の理解と保健 |
| 第 10 回 | 家庭看護と保健 |
| 第 11 回 | 予防接種の種類と効果 |
| 第 12 回 | 保育現場における事故防止と安全対策・救急処置 |
| 第 13 回 | 保育現場における安全対策並びに危機管理 |
| 第 14 回 | 保育所保育指針における小児の保健 |
| 第 15 回 | 幼稚園教育要領における小児の保健 |

**到達目標**

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能の発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の疾病等と適切な対応について理解できる。
4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解できる。
5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解できる。

**履修上の注意**

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・演習に参加してください。
遅刻３回で１回の欠席とする。

**予習・復習**

・予習：講義・演習前は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて予習をしてください。
・復習：講義・演習後は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 演習レポート（30%） | 期末試験（50%） | 受講態度（20%） |

**使用教科書名**

・プリントを配布いたします。

# 子どもの健康と安全　～保育者として必要な保健の知識・実践力を身につける～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 熊坂　隆行 |

**授業概要**

集団保育における疾病や事故の対応、安全管理等について学び、疾病や事故を未然に防ぐ危機管理能力を高め、演習を通して、実践できる能力を指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 身体の計測と評価　講義 |
| 第 2 回 | 身体の計測と評価　演習 |
| 第 3 回 | 観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価① |
| 第 4 回 | 観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価② |
| 第 5 回 | 日常の保育に必要な技術（抱っこ、おんぶ、食事、口腔内の清拭） |
| 第 6 回 | 日常の保育に必要な技術（排泄の援助とトレーニング） |
| 第 7 回 | 日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）① |
| 第 8 回 | 日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）② |
| 第 9 回 | あらゆる症状に対する看護（発熱、泣き方、咳等） |
| 第 10 回 | あらゆる症状に対する看護（頭痛、腹痛等） |
| 第 11 回 | あらゆる症状に対する看護（嘔吐、便秘、下痢等） |
| 第 12 回 | 疾病の対応と予防（感染症、食中毒） |
| 第 13 回 | 疾病の対応と予防（手洗い） |
| 第 14 回 | 応急処置（心肺蘇生法等） |
| 第 15 回 | 子どもの保育環境と衛生管理 |

**到達目標**

1. 保育施設のおける健康管理や環境管理ができる。
2. こどもがかかりやすい疾病と予防について理解ができる。
3. 保育中に体調不良になった場合に適切な対応ができる。
4. 保育中の事故に対する応急処置、緊急時の対応、安全管理ができる。

**履修上の注意**

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・演習に参加してください。
遅刻３回で１回の欠席とする。

**予習・復習**

・予習：講義・演習前は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて予習をしてください。
・復習：講義・演習後は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 演習レポート（30%） | 期末試験（50%） | 受講態度（20%） |

**使用教科書名**

・プリントを配布いたします。

# 子どもの食と栄養Ⅰ　～子どもの健やかな育ちを支援する～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 三沢　徳枝 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を指導する。乳児期から幼児期の子どもの発育・発達と食生活との関連について指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス、子どもの食と栄養に関する問題と学習する内容について |
| 第 2 回 | 子どもの健康と食生活の現状と課題 |
| 第 3 回 | 子どもの発育・発達、食べる機能の発達と栄養・食生活 |
| 第 4 回 | 栄養に関する基本的知識　①食べ物のゆくえ、水分代謝 |
| 第 5 回 | 栄養に関する基本的知識　②栄養素の種類と働き、食生活の目標、食事摂取基準 |
| 第 6 回 | 子どもの発育・発達と食生活　①妊娠期、授乳期の栄養と食生活 |
| 第 7 回 | 子どもの発育・発達と食生活　②乳児期の食生活の特徴、食べる機能と食行動 |
| 第 8 回 | 子どもの発育・発達と食生活　③乳児期の授乳の意義と食生活、乳汁栄養、調乳 |
| 第 9 回 | 子どもの発育・発達と食生活　④乳児期の授乳の意義と食生活、離乳の意義 |
| 第 10 回 | 子どもの発育・発達と食生活　⑤乳児期の授乳の意義と食生活、離乳食の進め方 |
| 第 11 回 | 子どもの発育・発達と食生活　⑥乳児期の離乳の意義と食生活<br>保育士による離乳食供与の留意点 |
| 第 12 回 | 子どもの発育・発達と食生活　⑦幼児期の心身の発達と食生活<br>幼児期の成長と発達、幼児期の食生活の特徴 |
| 第 13 回 | 子どもの発育・発達と食生活　⑧幼児期の心身の発達と食生活<br>幼児の献立、間食の意義と実践 |
| 第 14 回 | 子どもの発育・発達と食生活　⑨幼児期の心身の発達と食生活<br>幼児期の食生活上の問題と対応 |
| 第 15 回 | 学習の振り返りとまとめ |

**到達目標**

乳児期から幼児期の子どもが健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、発達段階ごとに食生活の特徴を理解し、食生活上の問題と健康への対応ができる。

**履修上の注意**

授業開始から 30 分以内の遅れは遅刻とする。最後のまとめで授業時に指示した資料や配布資料及び課題を使用するので整理しておく。

**予習・復習**

・予習：テキストや指示された資料を読み、teams の課題をする。
・復習：学習した内容を課題に追記して復習する。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 授業内レポート・テスト 60% | 課題 30% | 発表 10% |

**使用教科書名**

・教科書名：子どもの食と栄養　第 2 版～保育現場で活かせる食の基本
・著 者 名：太田百合子・堤ちはる編著
・出版社名：羊土社
・出 版 年：2020 年

# 乳児保育Ⅰ　～乳児保育の基本を理解する～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 2 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 関根　久美 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

教科書、教員の解説、DVD 視聴、ディスカッションなどから、乳児保育の理念、基本について指導する。乳児の発達や援助方法などを理論的に理解し、演習に進む基礎とする。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、乳児保育の意義・目的・歴史的変遷について |
| 第 2 回 | 乳児保育の役割と機能について |
| 第 3 回 | 日本の保育・子育ての支援のシステム |
| 第 4 回 | 保育所における乳児保育、保育内容（養護と教育）、保育士の役割 |
| 第 5 回 | 3 歳未満児とその家族をとりまく環境と子育て支援について |
| 第 6 回 | これからの日本の乳児保育の課題について |
| 第 7 回 | 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助① |
| 第 8 回 | 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助② |
| 第 9 回 | 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助③ |
| 第 10 回 | 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助④ |
| 第 11 回 | 乳児保育における環境（安全・清潔など）について |
| 第 12 回 | 乳児保育における環境（人・物・自然・社会事象）について |
| 第 13 回 | 乳児保育における計画・記録・評価について |
| 第 14 回 | 乳児保育における連携・協働について |
| 第 15 回 | 振り返りとまとめ |

**到達目標**

１、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。
２、保育所をはじめとする多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３、3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
４、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

**履修上の注意**

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

**予習・復習**

・予習：保育所保育指針、教科書を読んでおく。
・復習：復習：授業内容のプリント、ノートを整理し、重要事項をチェックする。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 試験　60% | レポートなど　30% | 授業態度　10% |

**使用教科書名**

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年：2020 年

# 乳児保育Ⅱ　～乳児保育の実践～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 関根　久美 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

乳児保育Ⅰで学習した理論を実践できるよう指導する。保育所実習での実践の基本を身に付けるため、演習を通して学生各自が具体的な保育方法を理解し、練習する。保育方法の技術が向上するよう、学生同士の意見交換や発表の場を多く設けていく。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性 |
| 第 2 回 | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち　子どもの体験と学びの芽生え |
| 第 3 回 | 子どもの1日の生活の流れと保育の環境<br>子どもの生活や遊びを支える環境構成 |
| 第 4 回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①（抱っことおんぶ） |
| 第 5 回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②（着替えとおむつ替え） |
| 第 6 回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際③（調乳と授乳） |
| 第 7 回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際④（おもちゃ作成） |
| 第 8 回 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際⑤（おもちゃ作成と実践） |
| 第 9 回 | 子ども同士の関わりとその援助の実際<br>集団での生活における配慮 |
| 第10回 | 長期的な指導計画　個別的な指導計画と集団の指導計画 |
| 第11回 | 短期的な指導計画の作成 |
| 第12回 | 指導計画の実践① |
| 第13回 | 指導計画の実践② |
| 第14回 | 指導計画の実践③ |
| 第15回 | 振り返りとまとめ |

**到達目標**

1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活と遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し実践する。

**履修上の注意**

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

**予習・復習**

・予習：実践のための計画を立て、準備しておく。
・復習：授業での実践を各自、自宅などで実践する。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 試験 50% | 指導計画と実践 40% | 授業態度 10% |

**使用教科書名**

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年：2020年

# 特別支援論Ⅰ（対象理解）　～特別支援教育の基礎・基本～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | 必修 | 必修 | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 井上　昌士 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

障害のある子供に携わる教師、保育士として必要な特別支援教育に係る基礎・基本的事項について以下の3点を重点的に指導する。

- 障害児理解、支援方法に係る基礎・基本的事項
- 多様な学びの場における障害のある子供の教育課程や実践内容等
- 特別支援教育に関する現状と課題、諸制度等

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション：障害児・者との関わりと特別支援教育の理念 |
| 第 2 回 | 障害児教育の歴史と特別支援教育の現状 |
| 第 3 回 | 視覚障害、聴覚障害の特性の理解と支援 |
| 第 4 回 | 知的障害の特性の理解と支援 |
| 第 5 回 | 肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性の理解と支援 |
| 第 6 回 | 言語障害、情緒障害の特性の理解と支援 |
| 第 7 回 | 発達障害①：自閉症の特性の理解と支援Ⅰ |
| 第 8 回 | 発達障害②：自閉症の特性の理解と支援Ⅱ |
| 第 9 回 | 発達障害③：学習障害の特性の理解と支援 |
| 第 10 回 | 発達障害④：注意欠陥／多動性障害等の特性の理解と支援 |
| 第 11 回 | 共生社会の形成とインクルーシブ教育システムの構築に関する理解 |
| 第 12 回 | 連続性のある多様な学びの場①　特別支援学校における指導の実際 |
| 第 13 回 | 連続性のある多様な学びの場②　特別支援学級における指導の実際 |
| 第 14 回 | 連続性のある多様な学びの場③　通級による指導、通常の学級での特別支援教育 |
| 第 15 回 | まとめ：特別支援教育を巡る状況の変化 |

**到達目標**

- 障害や特別支援教育についての基礎・基本を理解する。
- 特別支援教育を巡る状況や現状の概要を理解する。
- 連続性のある多様な学びの場の概要を理解する。

**履修上の注意**

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

**予習・復習**

- 予習：授業で取り扱う内容について、書籍やインターネットや新聞、TV 等を活用して情報収集を行う。
- 復習：資料（PPT スライド等）を用いて学んだ内容を整理して確認する。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 学期末試験　60% | 提出物、授業内レポート等 20% | 受講態度　20% |

**使用教科書名**

- 教科書は使用しないが、各回資料（PPT スライド等）を配布する。
- 参考図書：「特別支援教育の基礎・基本 2020」　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著作　ジアース教育新社出版

# 栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 前期 | 1 | 選択 | － | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 橋本　敏幸 |

**授業概要**

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について） |
| 第 2 回 | トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える） |
| 第 3 回 | エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る） |
| 第 4 回 | 土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する） |
| 第 5 回 | ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する） |
| 第 6 回 | トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する） |
| 第 7 回 | キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理） |
| 第 8 回 | 葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど） |
| 第 9 回 | 根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ） |
| 第 10 回 | ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ |
| 第 11 回 | エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ |
| 第 12 回 | 菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする） |
| 第 13 回 | 地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義） |
| 第 14 回 | 幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義） |
| 第 15 回 | 栽培授業のまとめ |

**到達目標**

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。また、栽培（農業）が子どもの発達に及ぼす影響について考える機会とする。

**履修上の注意**

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業もあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

**予習・復習**

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノート提出する。
・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 学期末考査 40% | 実習態度 40% | レポート 20% |

**使用教科書名**

教科書は使用しません。必要に応じて資料配布をします。

# 演劇　～想像力と創造力～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1・2年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 伊東　弘美 |

**授業概要**

演劇のツールを通して、コミュニケーション能力、表現力、想像力を伸ばすように指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 空間認識、仲間を知り、自分自身の開放をめざす。 |
| 第 2 回 | 同上 |
| 第 3 回 | ストーリーを作る。既成の物語を言葉を紡いで再生する。 |
| 第 4 回 | ストーリーを作る。課題に沿って、オリジナルのストーリーを作る。 |
| 第 5 回 | ミラーゲーム。相手の動きをよく観察し自分の身体を使って表現する。 |
| 第 6 回 | １つの音を歌って、皆で一曲にする。 |
| 第 7 回 | 「外郎売り」を使って、表現力、集中力をたかめる。 |
| 第 8 回 | 単音を使って、表現する。 |
| 第 9 回 | ジブリッシュを使って、表現する。 |
| 第 10 回 | 朗読劇を通して、読解力、表現力の向上をめざす。 |
| 第 11 回 | 同上 |
| 第 12 回 | 同上 |
| 第 13 回 | 同上 |
| 第 14 回 | 同上 |
| 第 15 回 | 試験に向けてのブラッシュアップ |

**到達目標**

表現力を使って、人とのコミュニケーションを円滑にできるようになる。

**履修上の注意**

動きやすい服装が、好ましい。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

**予習・復習**

予習・復習は、授業内で指示します。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 定期試験　50% | 授業態度 50% | |

**使用教科書名**

特になし

# 教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　～教育実習を有意義な体験にするために～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1･2 年 | 後期・前期 | 1 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| 木谷・関根・<br>佐々木・小林 |

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ（幼稚園）それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 教育実習の概要と事前事後指導の流れ |
| 第 2 回 | 実習先事前訪問（オリエンテーション）について |
| 第 3 回 | 実習生としてのマナーと心構え |
| 第 4 回 | 課題を明確にして教育実習に取り組むために |
| 第 5 回 | 実習日誌について①―日誌の意義を理解する |
| 第 6 回 | 実習日誌について②―日誌の書き方を学ぶ |
| 第 7 回 | 「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題 |
| 第 8 回 | 「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション |
| 第 9 回 | 「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問（オリエンテーション）について |
| 第 10 回 | 実習日誌について③―場面の記録の書き方を理解する |
| 第 11 回 | 指導案作成①―指導案の意義を理解する |
| 第 12 回 | 指導案作成②―指導案の書き方を学ぶ |
| 第 13 回 | 指導案作成③―指導案に沿った保育の展開を理解する |
| 第 14 回 | 教育実習Ⅱの課題と心構え |
| 第 15 回 | 「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題 |

## 到達目標

**1. 教育実習Ⅰ**

・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
・3 歳から 5 歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

**2. 教育実習Ⅱ**

・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

## 履修上の注意

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

## 予習・復習

（1）予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
（2）復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

## 評価方法

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

## 使用教科書名

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015 年

## 教育実習Ⅰ（幼稚園）　～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1 年 | － | 2 | 選択 | 必修 | － | － |

| 担当教員 |
|---|
| こども学科専任教員 |

※実務経験のある教員による授業科目

**授業概要**

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

**授業計画**

(1) 実習期間
2022 年 11 月 10 日～11 月 25 日（10 日間）
(2) 実習内容
・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

**到達目標**

1. 実習生の姿勢・態度
・マナーを守り、意欲的に取り組む。
・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。
2. 知識および技能
・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・3 歳児から 5 歳児の発達を理解し実習に臨む。
3. 実習日誌
・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
・「気づき」を書くことができる。
4. 指導案
※教育実習Ⅰでは、記録に重点を置き、指導案は教育実習Ⅱの課題とする。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

**履修上の注意**

(1) 教育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
(2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

**予習・復習**

(1) 予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。
(2) 復習　①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

**評価方法**

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

**使用教科書名**

なし

# 教育実習指導（事前事後）（小学校）　～実り多い実習を実現して今後へ生かす～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年･2年 | 後期･前期 | 1 | 選択 | － | 必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼　秀明 |

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。

事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要 |
| 第 2 回 | 教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え |
| 第 3 回 | 児童と学校生活（1）学校の現状・諸問題と対応 |
| 第 4 回 | 児童と学校生活（2）児童の諸問題と対応 |
| 第 5 回 | 教師の服務（1）学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割 |
| 第 6 回 | 教師の服務（2）教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応 |
| 第 7 回 | 指導の実際（1）実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度 |
| 第 8 回 | 指導の実際（2）場面指導の具体例 |
| 第 9 回 | 指導の実際（3）学習指導の実践事例―授業設計と教材研究― |
| 第 10 回 | 指導の実際（4）学習指導の実践事例―授業設計と指導案の書き方― |
| 第 11 回 | 指導の実際（5）学習指導の実践事例―授業実践― |
| 第 12 回 | 指導の実際（6）学習指導の実践事例―授業評価― |
| 第 13 回 | 教育実習参加についてのまとめ―教師としての抱負をもつ―、実習日誌の書き方 |
| 第 14 回 | 【事後指導】（1）実習の報告・反省 |
| 第 15 回 | （2）実習のまとめ、各自の今後の課題 |
| | ※1 年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。 |

## 到達目標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

## 履修上の注意

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

## 予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

## 評価方法

授業の成果（模擬授業を含む）100%

## 使用教科書名

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館
・出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第２版）』
・著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
・出版社 名：萌文書林
・出 版 年：2019 年

## 教育実習Ⅰ（小学校）　～より良い教師になるということ～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | － | 2 | 選択 | | 必修 | |

| 担当教員 |
|---|
| こども学科専任教員 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、大学での講義と関連付けて理解を深める。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション(1)　実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。 |
| 第 2 回 | オリエンテーション(2)　配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について |
| 第 3 回 | 実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介 |
| 第 4 回 | クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。 |
| 第 5 回 | 朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。 |
| 第 6 回 | クラス活動への参加。他のクラスの観察。 |
| 第 7 回 | クラス活動への参加。他のクラスの観察。 |
| 第 8 回 | クラス活動への参加。他のクラスの観察。 |
| 第 9 回 | クラス活動への参加。他のクラスの観察。 |
| 第 10 回 | クラス活動への参加。他のクラスの観察。 |
| 第 11 回 | クラス活動への参加。教科等指導。 |
| 第 12 回 | クラス活動への参加。教科等指導。 |
| 第 13 回 | クラス活動への参加。教科等指導。 |
| 第 14 回 | クラス活動への参加。教科等指導。 |
| 第 15 回 | 教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。 |

**到達目標**

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

**履修上の注意**

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

**予習・復習**

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

**使用教科書名**

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版）』（事前指導で使用）
学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
教育実習日誌(小学校)

# 保育実習指導Ⅰ（事前事後）　～有意義な保育実習を行うために～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 関根・三沢・宮澤・小林 |

**※実務経験のある教員による授業科目**

**授業概要**

保育所における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。また、実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

**授業計画**

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 【事前指導】 | 保育実習の概要と事前事後指導の流れ |
| 第 2 回 | | 実習生としてのマナーと心構え |
| 第 3 回 | | 保育所の生活と社会的役割 |
| 第 4 回 | | 課題を明確にして保育実習に取り組むために |
| 第 5 回 | | 実習日誌の書き方（1）記録の意義、記入上の諸注意 |
| 第 6 回 | | 実習日誌の書き方（2）記録のとり方、記入の仕方 |
| 第 7 回 | | 実習日誌の書き方（3）記録のとり方、記入の実際（ワーク） |
| 第 8 回 | | 実習先事前訪問（オリエンテーション）について |
| 第 9 回 | | 実習目標と課題の立て方 |
| 第 10 回 | | ３歳未満児のディリープログラムと実習日誌の書き方 |
| 第 11 回 | | 指導案の作成（1）指導案を作成する意味と指導案の書き方 |
| 第 12 回 | | 指導案の作成（2）指導案作成の実際（ワーク） |
| 第 13 回 | | 指導案の作成（3）指導案作成の実際（まとめ） |
| 第 14 回 | | 実習における諸注意と事前の自己チェック |
| 第 15 回 | 【事後指導】 | 実習成果発表会・保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題 |

**到達目標**

・実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む
・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む
・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む
・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる
・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

**履修上の注意**

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照）
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

**予習・復習**

（1）予習　①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える
　　②実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む
（2）復習　①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる

**評価方法**

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

**使用教科書名**

厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）最新版
小櫃智子編「実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド」（わかば社）2015 年

# 保育実習指導Ⅱ（事前事後）　～有意義な施設実習とするために～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| 野口・井上・小山内・齊藤・佐藤 |

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。また、実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習日誌の書き方、実習施設の特色等について事前指導を行う。

実習終了後には、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習成果報告会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての目標、自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業は、特別支援学校での勤務経験を反映させて実施する。

## 授業計画

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 【事前指導】 | 保育実習Ⅱ（施設）の概要／実習事前事後指導の流れ |
| 第 2 回 | | 保育実習Ⅱ（施設）の意義／施設保育士の役割 |
| 第 3 回 | | 子ども・利用者の人権と最善の利益 |
| 第 4 回 | | 施設の理解（1）各種施設の概要 |
| 第 5 回 | | 施設の理解（2）各種施設の子ども・利用者 |
| 第 6 回 | | 施設の理解（3）各種施設における支援の実際 |
| 第 7 回 | | 施設の理解（4）保育士（支援者）の役割 |
| 第 8 回 | | 特別なニーズを持つ対象との対人関係のつくり方 |
| 第 9 回 | | 実習日誌の書き方（1）実習施設の概要 |
| 第 10 回 | | 実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために |
| 第 11 回 | | 実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために |
| 第 12 回 | | 実習の課題・毎日の課題の意義と立て方 |
| 第 13 回 | | 実習における諸注意と事前の自己チェック |
| 第 14 回 | 【事後指導】 | 実習成果発表会 |
| 第 15 回 | | 保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題 |

## 到達目標

・人権を理解し尊重する態度を身につけて実習に臨む。
・施設の役割と社会的な位置づけ、施設の現状（生活、職員の役割）を理解して実習に臨む。
・観察することの意味を理解して実習に臨む。
・記録の取り方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・期日を守り、提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・保育実習Ⅱを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

## 履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合、実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

## 予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

## 評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

## 使用教科書名

・守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』（わかば社）2014 年
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省『保育所保育指針解説書』（平成 29 年度告示）

## 保育実習Ⅰ（保育所）　～保育所の機能・子ども理解に向けて～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 | |
| 1年 | － | 2 | 選択 | － | － | 必修 | こども学科専任教員 |

※実務経験のある教員による授業科目

**授業概要**

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する

**授業計画**

(1) 実習期間
2023年2月・3月の間の2週間、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

**到達目標**

1. **実習生の姿勢・態度**
・保育実習に関するマナーを学ぶ
・安全に配慮できる
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める
2. **知識および技能**
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける
・子どもの発達過程を理解する
3. **実習日誌**
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ
4. **指導案**
・指導案とは何かを知る
5. **手続きと提出物**
・期日を守り、自主的に進められる

**履修上の注意**

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

**予習・復習**

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

**評価方法**

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

**使用教科書名**

とくになし

## 保育実習Ⅱ（施設）　～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | － | 2 | 選択 | － | － | 必修 |

| 担当教員 |
|---|
| こども学科専任教員 |

※実務経験のある教員による授業科目

**授業概要**

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

**授業計画**

（1）実習期間実習時間
2023年2月・3月の間の2週間、90時間の実習を行う（実習施設により異なる）。
（2）実習内容
観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある）。

**到達目標**

1. 実習生の姿勢・態度
・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。
2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。
3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。
4. 指導案
・部分実習の具体例を学ぶ。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

**履修上の注意**

（1）保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。
（2）保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

**予習・復習**

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

**評価方法**

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

**使用教科書名**

なし

# 保育・教育学演習Ⅰ　～絵本を読む・絵本をつくる～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 木谷　安憲 |

**授業概要**

幼稚園実習や就職後につかえるオリジナル絵本の制作や創作紙芝居の共同制作など、手作り作品の指導をする。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 紙芝居の共同制作Ⅰ |
| 第 2 回 | 紙芝居の共同制作Ⅱ（完成） |
| 第 3 回 | 共同制作　ローラーあそび |
| 第 4 回 | スマホを使った写真遊び |
| 第 5 回 | 紙コップによる造形遊び |
| 第 6 回 | 校外授業 |
| 第 7 回 | 校外授業 |
| 第 8 回 | 絵本の制作　アイディアを出す |
| 第 9 回 | 絵本の制作　構成 |
| 第 10 回 | 絵本の制作　作画 |
| 第 11 回 | 絵本の制作　作画 |
| 第 12 回 | 絵本の制作　彩色 |
| 第 13 回 | 絵本の制作　彩色 |
| 第 14 回 | 絵本の制作　製本 |
| 第 15 回 | まとめ・振り返り |

**到達目標**

絵本について詳しくなる。
自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後役に立つ知識や経験を積む。

**履修上の注意**

自分の宝物を作るつもりでこの授業に臨む。
校外授業を行う（場所、取り組みなどについては授業の中で説明する）。
30 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻３回で１回の欠席とする

**予習・復習**

・予習：できるだけ多くの絵本を読む。
・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

**評価方法**

| | |
|---|---|
| 提出作品（70%） | 発表・授業態度（30%） |

**使用教科書名**

使用せず。適宜プリントを配布する

## 保育･教育学演習Ⅰ　～体育・健康科学　実践・実感を通して～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 小山内弘和 |

**授業概要**

本演習では、「身体、身体活動」を中心に実践していく。自分自身が様々な運動を経験し、その中での気づきを発見する。また、運動の「できない」から「できる」に変わるためにどのように活動を組み立てていく必要があるかを自分たちで探索的に考えていく。その経験を踏まえて、運動対して多角的に取り組めるように運動あそびの作成も行っていく。実践、実感し、物事を系統的に考えられるよう指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 遊びの実践① |
| 第 3 回 | 遊びの実践② |
| 第 4 回 | 運動遊びの作成・立案① |
| 第 5 回 | 運動遊びの作成・立案② |
| 第 6 回 | 運動遊びの作成・シミュレーション① |
| 第 7 回 | 運動遊びの作成・シミュレーション② |
| 第 8 回 | 運動遊びの作成・発表① |
| 第 9 回 | 運動遊びの作成・発表② |
| 第 10 回 | 評価・分析・反省 |
| 第 11 回 | 遊びの実践③ |
| 第 12 回 | 遊びの実践④ |
| 第 13 回 | 運動遊びの作成・テーマの選定、方向性について検討① |
| 第 14 回 | 運動遊びの作成・テーマの選定、方向性について検討② |
| 第 15 回 | 全体総括 |

**到達目標**

出来ない運動に対してどのようにアプローチしていくかを考えることや、初めて行うことを通して物事の進め方を考える力を養う。

**履修上の注意**

実技での活動を中心とする。全ての内容において多くの準備を必要とする。できる・できないのみではなく、積極的な姿勢で取り組むこと。また、「一生懸命」であること。集団での活動が中心となることから、積極的なコミュニケーションを取ることを期待する。

・実践を行う際は、それに適した服装をすること。
・遅刻は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況に合わせて，内容を変更する場合がある。

**予習・復習**

集団での活動が中心となることから、内容の理解が薄い場合は他の多くの学生に負担を強いることになる。

・予習：内容の理解を深めるようシミュレーションや内容の確認を十分にして授業に臨む。
・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見する。

**評価方法**

| | |
|---|---|
| 授業への貢献度及び授業態度　60% | 提出物や発表　40% |

**使用教科書名**

なし（適宜、プリント等を配布）

## 保育･教育学演習Ⅰ（特別支援教育）～特別支援教育に関心を持ち、理解を深める～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 井上　昌士 |

**授業概要**

本演習は、特別支援教育に関する研究領域において、受講生一人ひとりが疑問に感じていること、もっと知りたいこと等を中心に、個人またはグループで研究・調査テーマを設定して取り組む。領域は特に指定せず、心理、病理、生理、教育課程、指導方法、指導内容、指導体制等幅広く扱い、受講生が特別支援教育に関心を持ち、理解を深めることができるよう指導する。

前半は研究・調査テーマに基づく資料の収集と整理及び分析を行い、中間報告に臨む。後半はポスター制作に取り組み、発表会を行う。発表と討議からさらに理解が深まるように指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 研究・調査テーマ設定について |
| 第 3 回 | 研究・調査活動①　資料の収集と整理 |
| 第 4 回 | 研究・調査活動②　資料の収集と整理 |
| 第 5 回 | 研究・調査活動③　資料の分析 |
| 第 6 回 | 研究・調査活動④　資料の分析 |
| 第 7 回 | 研究・調査活動⑤　中間発表用レジュメ作成 |
| 第 8 回 | 中間発表　質疑応答 |
| 第 9 回 | 研究・調査活動⑥修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析 |
| 第 10 回 | ポスター制作①　構想立案 |
| 第 11 回 | ポスター制作②　制作活動 |
| 第 12 回 | ポスター制作③　製作活動 |
| 第 13 回 | ポスター制作④　発表練習 |
| 第 14 回 | ポスター発表会 |
| 第 15 回 | まとめ |

**到達目標**

- 資料収集、整理、分析の方法を身につける。
- 設定した研究・調査テーマのポスターを制作し発表を行う。
- 特別支援教育への関心が高まり、理解を深める。

**履修上の注意**

- 資料収集、分析を重視し、エビデンスに基づいた研究・調査活動、発表になるように努めること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。

**予習・復習**

- 予習：研究・調査活動、ポスター制作のスケジュールに沿って、効率よく活動が進むように計画的に準備を行う。
- 復習：取り組んだ活動の見直しや不足部分の補充を行い、次回に備える。

**評価方法**

受講態度（参加度、貢献度を含む）60%、発表内容 40%から総合的に評価する。

**使用教科書名**

なし（適宜、プリント等を配布）

# 保育･教育学演習Ⅰ　～『クオレ』を読む～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1 年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 長沼　秀明 |

## 授業概要

イタリアの作家エドモンド・デ・アミーチスの名作『クオレ』(1886 年刊行）を講読します。この作品には、今から 130 年ほど前の北イタリアの都市の 1 年間の学校生活が小学 4 年生の日記形式で綴られています。作品の講読をつうじて各自が保育・教育学に関する諸問題を発見・分析し、皆で討議することを通じて、各自が保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるよう指導します。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど） |
| 第 2 回 | 作品の講読・分析（その 1） |
| 第 3 回 | 作品の講読・分析（その 2） |
| 第 4 回 | 作品の講読・分析（その 3） |
| 第 5 回 | 作品の講読・分析（その 4） |
| 第 6 回 | 作品の講読・分析（その 5） |
| 第 7 回 | 作品の講読・分析（その 6） |
| 第 8 回 | 作品の講読・分析（その 7） |
| 第 9 回 | 作品の講読・分析（その 8） |
| 第 10 回 | 作品の講読・分析（その 9） |
| 第 11 回 | レポート（ミニ論文）の作成（その 1） |
| 第 12 回 | レポート（ミニ論文）の作成（その 2） |
| 第 13 回 | レポート（ミニ論文）の作成（その 3） |
| 第 14 回 | レポート（ミニ論文）の作成（その 4） |
| 第 15 回 | まとめ |

## 到達目標

学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるようになること。

## 履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

## 予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

## 評価方法

| | |
|---|---|
| 授業の成果 70% | 学期末レポート 30% |

## 使用教科書名

・教科書名：『クオレ』(21 世紀版 少年少女世界文学館 22)
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年：2011 年

# 保育･教育学演習Ⅰ　～保育学～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 関根　久美 |

**授業概要**

児童文化財である「エプロンシアター」を作成指導する。
人形劇、児童劇などのパフォーマンスを観覧する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | エプロンシアターの題材を決定する。 |
| 第 3 回 | エプロンシアターの型紙つくり① |
| 第 4 回 | エプロンシアターの型紙つくり② |
| 第 5 回 | エプロンシアターの型紙つくり③ |
| 第 6 回 | 布の裁断① |
| 第 7 回 | 布の裁断② |
| 第 8 回 | エプロンシアターの縫製① |
| 第 9 回 | エプロンシアターの縫製② |
| 第 10 回 | 外部での実践見学 |
| 第 11 回 | 観覧した「演目」に関るまとめ |
| 第 12 回 | エプロンシアターの縫製③ |
| 第 13 回 | エプロンシアターのしかけつくり① |
| 第 14 回 | エプロンシアターのしかけつくり② |
| 第 15 回 | 振り返りとまとめ |

**到達目標**

教員の援助を受けながら、自分の力で「エプロンシアター」を完成させる。作成方法、裁縫の技法を身に付ける。「人形劇」「児童劇」の観劇から感性を豊かにする。

**履修上の注意**

自分の課題に向かって前向きに取り組むこと。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

**予習・復習**

・予習：作成について資料収集をする。
・復習：各自の計画に間に合うよう、自宅での実践を行う。

**評価方法**

作成の取り組みなど、総合的に評価する。

**使用教科書名**

特になし

## 保育･教育学演習Ⅰ（音楽教育実践学）～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 齊藤　淳子 |

**授業概要**

管・打楽器や身の回りにあるもの等を用いて，自らも主体的且つ豊かに表現することで，子ども達に「音楽の楽しさ」「表現することの楽しさや大切さ」を伝えられるような保育者・教育者を目指す。また，研究テーマに関する楽曲分析や討論，演習などを通して研究を深めるための方法を指導する。

**授業計画**

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス，研究テーマの検討 | |
| 第 2 回 | 研究計画について | 楽器の奏法の習得① |
| 第 3 回 | 楽器編成や幼児・児童に合わせた編曲について | 〃 ② |
| 第 4 回 | 探求・研究活動① | 〃 ③ |
| 第 5 回 | 探求・研究活動② | 〃 ④ |
| 第 6 回 | 探求・研究活動③ | 〃 ⑤ |
| 第 7 回 | 探求・研究活動④ | 〃 ⑥ |
| 第 8 回 | 中間発表(学園祭での発表) | |
| 第 9 回 | 探求・研究活動⑤ | 〃 ⑦ |
| 第 10 回 | 探求・研究活動⑥ | 〃 ⑧ |
| 第 11 回 | 探求・研究活動⑦ | 〃 ⑨ |
| 第 12 回 | 探求・研究活動⑧ | 〃 ⑩ |
| 第 13 回 | 探求・研究活動⑨ | 〃 ⑪ |
| 第 14 回 | 探求・研究活動⑩ | 〃 ⑫ |
| 第 15 回 | 探求・研究活動⑪ | 〃 ⑬ |

**到達目標**

・管・打楽器，鍵盤楽器，声等によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

**履修上の注意**

学園祭での発表など授業外での活動も行うため，必ず参加すること。
遅刻３回で１欠席扱いとします。

**予習・復習**

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

**評価方法**

| | |
|---|---|
| 学習態度・練習状況（70%） | 発表・課題提出等（30%） |

**使用教科書名**

適宜，資料を配布する。
譜面入れ等を準備すること。

# 保育･教育学演習Ⅰ　～SDGs を知ろう～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1 年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 三沢　徳枝 |

**授 業 概 要**

子どもの環境に関する課題を設定し、SDGs について講義する。SDGs の視点から生活事象への対応を理解し、実践につながるように指導する。

**授 業 計 画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 子どもの生活環境とウエルビーイング |
| 第 3 回 | 研究課題の検討 |
| 第 4 回 | 幼児に伝える SDGs について |
| 第 5 回 | 子どもの生活環境①　子どもと家庭生活 |
| 第 6 回 | 子どもの生活環境②　子どもの食生活 |
| 第 7 回 | 子どもの生活環境③　子どもの消費生活 |
| 第 8 回 | 私たちにできる SDGs の実践　アップサイクルの製作① |
| 第 9 回 | 私たちにできる SDGs の実践　アップサイクルの製作① |
| 第 10 回 | 私たちにできる SDGs の実践　アップサイクルの製作① |
| 第 11 回 | 私たちにできる SDGs の実践　アップサイクルの製作① |
| 第 12 回 | 幼児に伝える SDGs の教材作成① |
| 第 13 回 | 幼児に伝える SDGs の教材作成② |
| 第 14 回 | 幼児に伝える SDGs の教材作成③ |
| 第 15 回 | 授業の振り返りとまとめ |

**到 達 目 標**

SDGs と取り組みについて理解し、実践力を身に付ける。さらに幼児に SDGs を伝えることができる。

**履修上の注意**

製作を行う際の材料や道具を用意する。授業開始 30 分以内までを遅刻とする。

**予 習 ・ 復 習**

・予習：計画的に製作やリポート作成の準備をする
・復習：製作物やリポートをポートフォリオし保存して学習活動を振り返る

**評 価 方 法**

| | | |
|---|---|---|
| 製作物、リポート 80% | 発表 20% | |

**使用教科書名**

授業時に資料を配布する

# 保育･教育学演習Ⅰ（児童文学）～絵本や昔話、幼年童話を深く学ぶ～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 佐々木美和 |

## 授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、受講生一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。

前半は教育実習Ⅰでの部分実習活動を念頭に、絵本の種類や知識、使い方など、絵本において知っておくべき基本的な事柄を確認する。その上で、想定される対象年齢児の発達や成長を踏まえて選んだ絵本の読み聞かせを実演してもらい、それに対して個別指導を行う。

後半は、個人およびグループで研究課題を選び、調査や考察を進め、成果を発表しゼミ生間で討議する。題材は児童文学および児童文化の領域とし、研究テーマは自由とする。受講生一人ひとりが選んだテーマへの考察を通じて学びが深められるように指導する。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 絵本の特徴と種類、読み聞かせの基本 |
| 第 3 回 | 絵本選びと使い方の工夫① |
| 第 4 回 | 絵本選びと使い方の工夫② |
| 第 5 回 | 絵本選びと使い方の工夫③ |
| 第 6 回 | 絵本選びと使い方の工夫④ |
| 第 7 回 | 絵本選びと使い方の工夫⑤ |
| 第 8 回 | まとめ（1）　教育実習に向けての教材活用について |
| 第 9 回 | 研究活動①　研究活動の目的 |
| 第 10 回 | 研究活動②　課題の選定 |
| 第 11 回 | 研究活動③　課題の発表 |
| 第 12 回 | 研究活動④　研究の方法と計画の立案 |
| 第 13 回 | 研究活動⑤　資料の収集と整理 |
| 第 14 回 | 研究活動⑥　資料の収集と整理 |
| 第 15 回 | まとめ（2）　発表と質疑応答 |

## 到達目標

・教育者や保育者に必要とされる児童文学・児童文化に関する基本的な知識を身につける。
・資料収集や文献調査、レジュメ作成、発表の仕方など、短大生に必要なスキルを身につける。
・グループワークを通して、協働と討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

## 履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 3 回で 1 回の欠席とみなす。
・受講生の研究テーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する可能性がある。

## 予習・復習

・予習：配布資料の読み込み、文献収集、発表準備など（毎回授業時に指示する）
・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 発表内容　50% | 提出物　30% | 授業態度　20% |

## 使用教科書名

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やレジュメを配布する。

## 保育・教育学演習Ⅰ（教育学・子ども家庭福祉論）　～地域と子ども・子育て～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 佐藤　晃子 |

### 授業概要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに、その現状と課題を概観した上で、地域において行われている子ども・子育て支援の実際について、文献や映像資料等に加え実地調査や体験学習を通して検討を行う。具体的には、受講生自らが育ってきた／住んでいる地域における子育て支援の実践事例について、その意義や役割、課題等について調査研究する。また、実際に地域に出て、子育て支援活動を実施し、準備から計画、実施に至るまで、学生主体で活動を行い、指導する。

### 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題①（文献を用いたグループディスカッション） |
| 第 3 回 | 地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題②（文献を用いたグループディスカッション） |
| 第 4 回 | 地域における子ども・子育て支援の実際（映像資料等を用いたグループディスカッション） |
| 第 5 回 | 事例調査の進め方（先行研究、資料収集の方法や成果のまとめ・発表方法等について） |
| 第 6 回 | 地域における子ども・子育て支援事例の収集、発表準備 |
| 第 7 回 | 地域における子ども・子育て支援の実際①受講生による事例調査報告 |
| 第 8 回 | 地域における子ども・子育て支援の実際②受講生による事例調査報告 |
| 第 9 回 | 地域での子育て支援活動の準備①対象についての事前学習 |
| 第 10 回 | 地域での子育て支援活動の準備②指導案の作成等（グループ活動） |
| 第 11 回 | 地域での子育て支援活動の準備③模擬保育等（グループ活動） |
| 第 12 回 | 地域での子育て支援活動の実施（学外授業） |
| 第 13 回 | 学外授業の振り返り |
| 第 14 回 | 実践活動記録の作成（グループ活動） |
| 第 15 回 | 活動報告会／まとめ |

### 到達目標

1)　地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し、論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
2)　保育者としての立場から、地域子育て支援活動を観察及び実践し、基本的知識と技術を習得する。
3)　自分の役割を見つけ、能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

### 履修上の注意

・　遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・　学外での活動を予定しているが、実施回・日については未定である。また、社会状況により中止や他の方法への変更もありうる。

### 予習・復習

授業時間外に、個人またはグループでの課題や活動の準備を行うことが求められる。

### 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 受講態度（参加度含む）　50% | 課題レポート及び発表　50% | |

### 使用教科書名

特になし。授業内に適宜紹介する。

# 保育･教育学演習Ⅰ（音楽教育学）～歌とピアノを中心とした音楽表現の探究～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 宮澤多英子 |

## 授業概要

歌唱とピアノ演奏を中心とした、音楽あそびや音楽科授業に関する探究活動や音楽表現活動を指導する。

大学祭では、音楽の楽しさや良さを聴き手と共有できるコンサートを目指し、合唱やミュージックベル、トーンチャイムなどの合奏に取り組み、主体的・協働的に企画・発表を行う。また、来場者へのアンケート調査を実施して分析と振り返りを行い、音楽発表の企画・運営力を高める。

その他にも、保育者・教育者としての音や音楽に対する感性や音楽表現力を育成するために、「身の回りの音を聴く」サウンド・ウォークとサウンド・マップの作成や、ピアノ連弾や音楽劇を指導する。

## 授業計画

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、大学祭での演奏発表（コンサート）の企画 | |
| 第 2 回 | 合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）①練習 | |
| 第 3 回 | 合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）②練習 | |
| 第 4 回 | 合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）③練習 | |
| 第 5 回 | 合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）④練習 | |
| 第 6 回 | 合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）⑤リハーサル | |
| 第 7 回 | 【大学祭での演奏発表】 | |
| 第 8 回 | 身の回りの音を聴く①環境との対話（サウンド・ウォークの実施） | |
| 第 9 回 | 身の回りの音を聴く②環境との対話（【サウンド・マップ】の作成と発表） | |
| 第 10 回 | 身の回りの音を聴く③素材との対話（音色づくり・音の作品づくり） | |
| 第 11 回 | 教育実習での音楽活動の振り返り、ピアノ連弾① | |
| 第 12 回 | ピアノ連弾② | 音楽劇① |
| 第 13 回 | ピアノ連弾③ | 音楽劇② |
| 第 14 回 | ピアノ連弾④ | 音楽劇③ |
| 第 15 回 | 【ピアノ連弾・音楽劇の発表】 | |

## 到達目標

・音楽の楽しさを聴き手と共有できるコンサートを目指して、主体的・協働的に活動に取り組むことができる。
・音や音楽を楽しみながら、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱や楽器演奏をすることができる。
・身の回りの自然音や環境音に興味・関心をもち、知覚・感受したことを他者に伝えたり、音を媒体として自身の内的世界を表現したりすることができる。

## 履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・大学祭での演奏発表は、準備・リハーサル・本番の出席を必修とする。

## 予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲については全て、事前に譜読みをして練習しておく。また、大学祭の演奏発表の企画・運営に関して、自分が担当する役割の準備を事前に行う。
・復習：授業で演奏した部分について、確実に演奏できるように反復練習をする。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 演奏発表に取り組む姿勢・態度 50% | 表現技能 30%（ピアノ連弾 20%・音楽劇 10%） | 課題 20% |

## 使用教科書名

# 保育・教育学演習Ⅰ　～臨床保育学演習～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 岩崎 桂子 |

**授業概要**

園生活で使用されている保育知識・技術を、受講生の興味・関心に応じて理解が深められるように指導する。現在、保育現場で行われているモンテッソーリ教育やシュタイナー保育、ヨコミネ式保育等について文献、実地調査を交えて学習を進める。また、保育現場で使用できる教材を作成し発表を行わせ、指導する。

**授業計画**

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 各自で保育方法を調べる |
| 第 3 回 | 各自で調べた保育方法を発表する |
| 第 4 回 | テーマに基づきグループで理解を深める |
| 第 5 回 | グループで実地調査に向けて準備を行う |
| 第 6 回 | グループワーク発表準備：学内 |
| 第 7 回 | グループワーク発表 |
| 第 8 回 | 保育教材について調べる |
| 第 9 回 | 保育教材作成① |
| 第 10 回 | 保育教材作成② |
| 第 11 回 | 保育教材作成③ |
| 第 12 回 | 保育教材作成④ |
| 第 13 回 | 作成した保育教材の発表① |
| 第 14 回 | 作成した保育教材の作成② |
| 第 15 回 | まとめ・振り返り |

**到達目標**

・保育方法について学び、知識を増やし今後の自分の保育に生かす。
・教材作成を通じて、実習や就職後に生かす。

**履修上の注意**

自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。

**予習・復習**

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

**評価方法**

| | | |
|---|---|---|
| 課題への取り組み 50% | 発表 50% | |

**使用教科書名**

特になし。必要に応じてプリント配布や指示を出す。

# 保育･教育学演習Ⅰ（保育の社会学）　～子どもの遊びと社会・環境のつながり～

| 年次 | 時期 | 単位 | 卒業 | 免許・資格 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 幼稚園 | 小学校 | 保育士 |
| 1年 | 後期 | 1 | 必修 | － | 選択必修 | － |

| 担当教員 |
|---|
| 小林　佳美 |

## 授業概要

本演習では、時代、地域、国を超えたさまざまな子どもの遊びや生活と、多様なレベルの社会を含めた「環境」との関係について、視聴覚資料や文献、又は身近な自然環境を用いて実感できるように指導する。そのうえで「持続可能な開発目標」(SDGs： Sustainable Development Goals)について理解を深め、保育現場又は家庭での子どもの遊びを通して、目標達成に寄与できる取り組みを探究する。加えて、情報機器を活用してプレゼンテーションすることで、たくさんの人々に自らの保育を伝える力を養う。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション―子どもにとっての環境とは？ |
| 第 2 回 | 保育の「環境」ワークショップ①―身の回りの環境を通した学びとは？ |
| 第 3 回 | 保育の「環境」ワークショップ②―世界規模の環境と子どものくらし・遊びのつながり |
| 第 4 回 | SDGs の探究①―問題の所在と課題解決方法の整理 |
| 第 5 回 | SDGs の探究②―課題解決につながる遊び・活動の検討と計画作成 |
| 第 6 回 | SDGs の探究③―課題解決につながる遊び・活動の計画のプレゼン資料作成 |
| 第 7 回 | SDGs の探究④―問題の所在と解決に寄与する遊び・活動のプレゼンと相互評価 |
| 第 8 回 | 遊び・活動①の実践 |
| 第 9 回 | 遊び・活動①の記録作成と振り返り |
| 第 10 回 | 遊び・活動②の実践 |
| 第 11 回 | 遊び・活動②の記録作成と振り返り |
| 第 12 回 | 遊び・活動③の実践 |
| 第 13 回 | 遊び・活動③の記録作成と振り返り |
| 第 14 回 | SDGs の探究⑤―問題の所在と解決に寄与する遊びのまとめと考察（資料作成） |
| 第 15 回 | SDGs の探究⑥報告会 |

## 到達目標

①保育実践や子どもの生活と多様なレベルの社会・環境との関係について理解を深める。
②子どもの遊びや生活と社会・環境とのつながりについて関心をもち、各自が課題解決に寄与したいテーマを見つける。
③「問い」に基づいたテーマを探究し、遊びを計画・記録し考察できるようになる。
④情報機器を活用した発表およびディスカッションの手法を身に付ける。

## 履修上の注意

・各自の関心・テーマを探究するにあたって、授業時間外での調べ学習や資料づくり等が必要になります。積極的な参加を期待します。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、30 分以降の入室は欠席として扱います。

## 予習・復習

・予習・復習：各自のテーマに沿った調べ学習や資料づくり。

## 評価方法

| | | |
|---|---|---|
| 受講態度　50% | 発表・提出物　50% | |

## 使用教科書名

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。